

「みどりの市民意識調査」集計結果について

平成 27 年 11 月

仙台市建設局

百年の杜推進課

1 概要

(1) 目的

みどりの量や質に対する満足度や守りたいみどり・増やしたいみどり、重点を置く施策などについて市民意識を把握し、「みどりの基本計画 2012-2020」の中間評価の参考とするため。

(2) 意見募集方法・期間

- ・ 調査対象 : 市政モニター200名
- ・ 調査方法 : 郵送及びインターネットによる配布回収
- ・ 調査期間 : 平成 27 年 7 月 23 日から平成 27 年 8 月 6 日

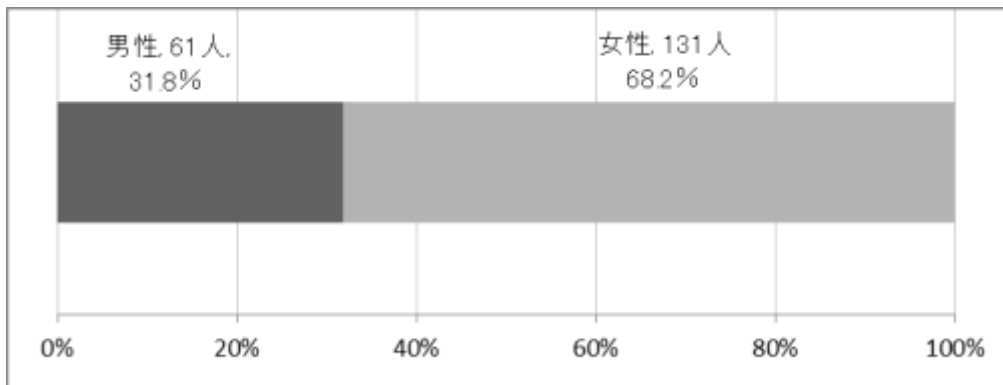
(3) 回収結果

有効回答数: 192 人(回収率 96.0%)

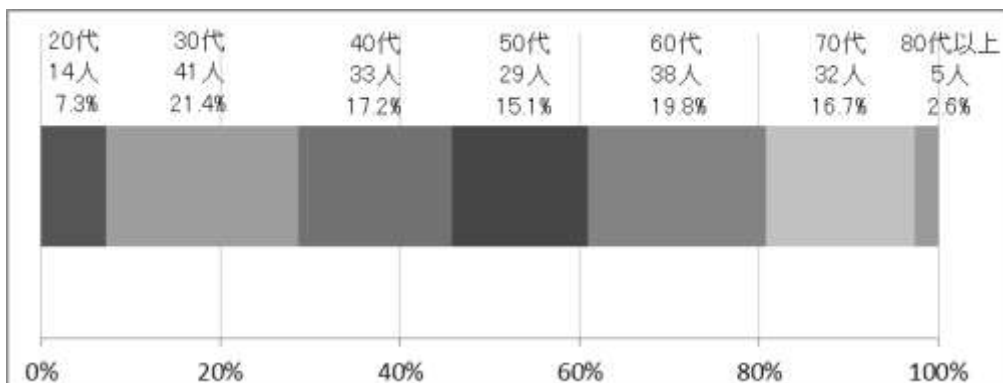
2 回答者の属性等について

N = 192

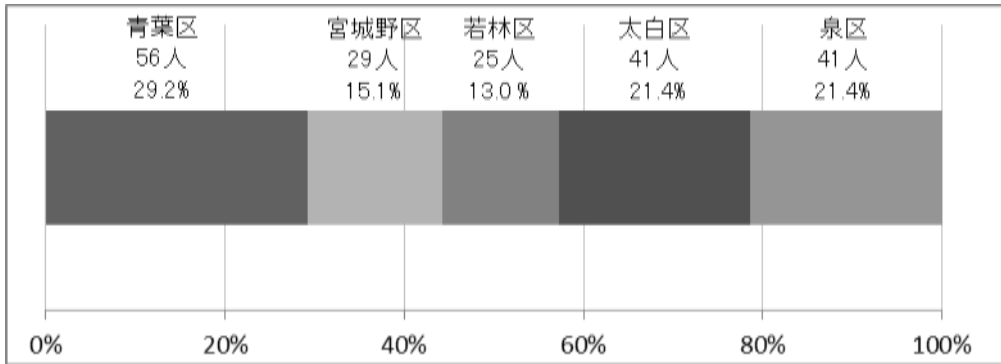
○ 性別



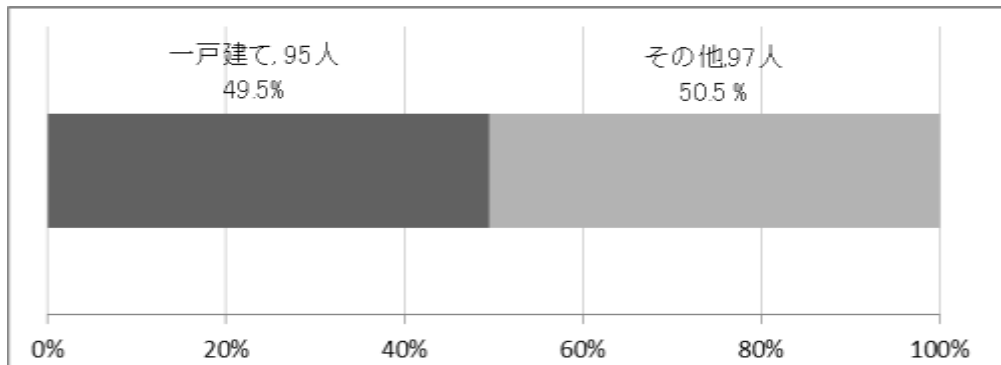
○ 年齢



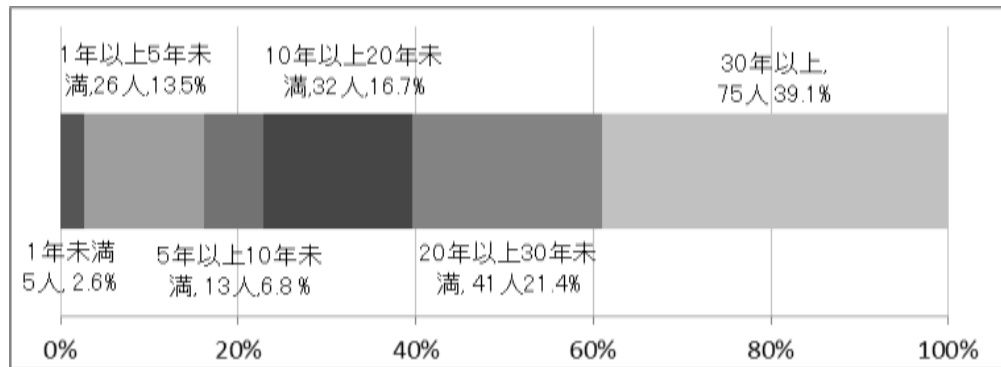
○ 居住区



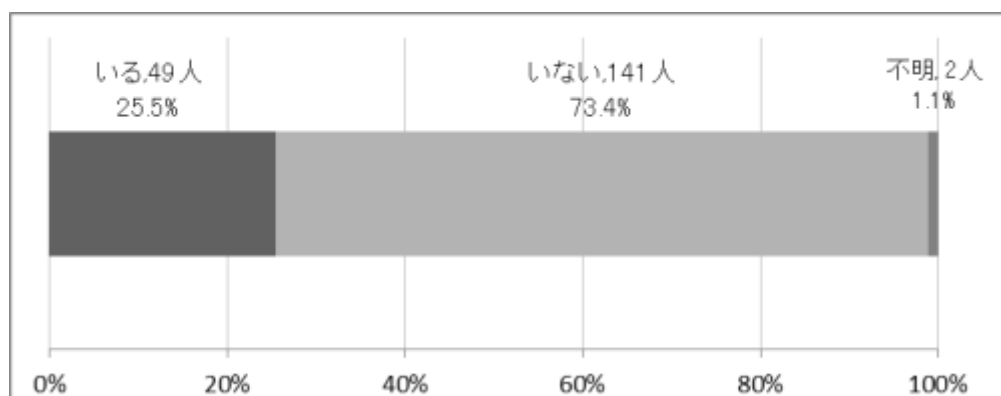
○ お住まい



○ 仙台市での居住年数



○ 同居している小学生の有無



3 アンケート調査結果

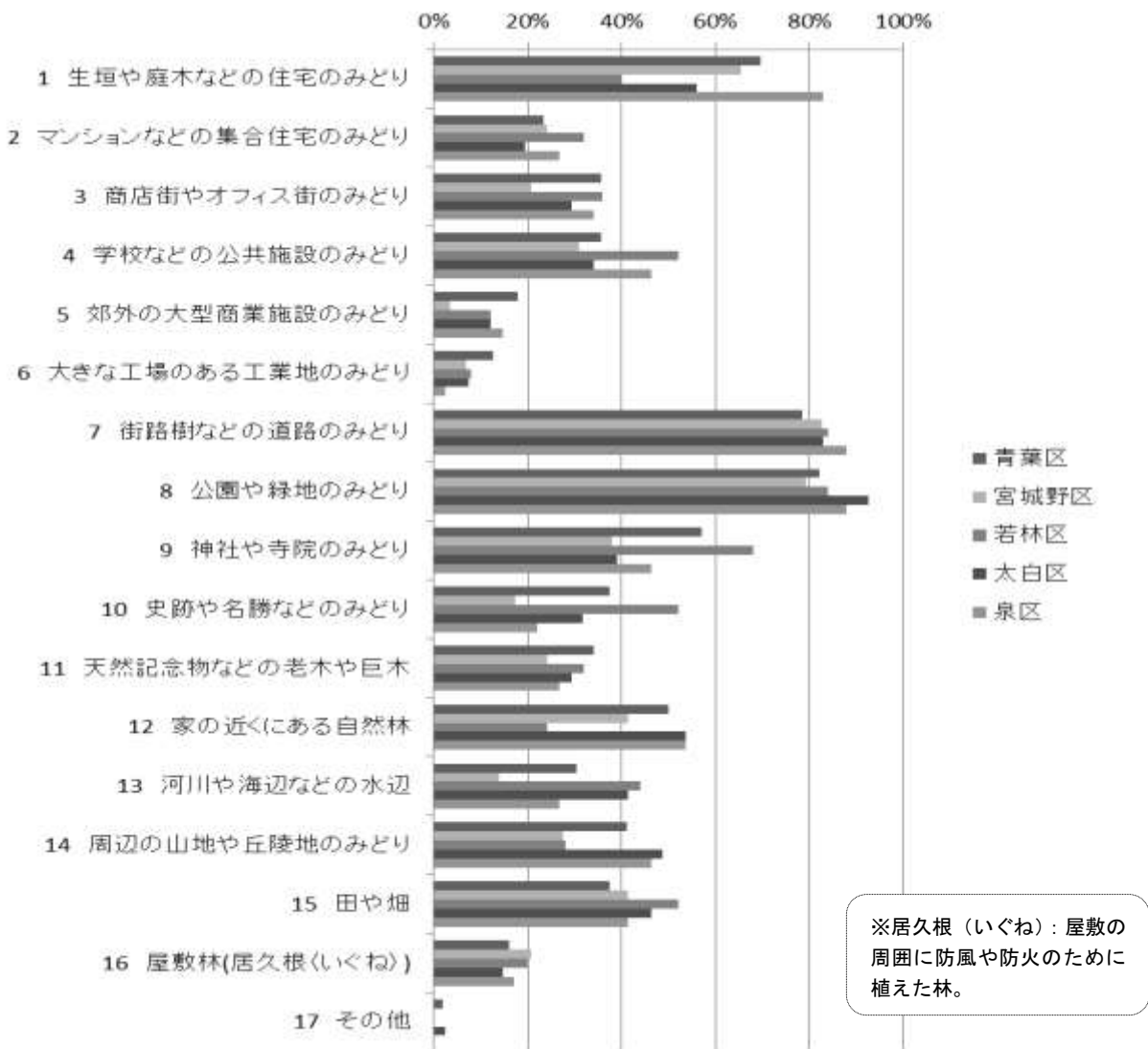
(1) 身近なみどりについて

身近にあるみどりは、日常的にふれあうため、暮らしの質に影響を与えていると考えられます。市民の皆さんにとって、身近なみどりとは何か、またそれに対する満足度、今後増やして欲しい身近なみどり等について質問をしました。

① あなたにとっての身近なみどりとは何ですか。該当する番号にいくつでもチェックをしてください。

(N=192, N_A=1,228)

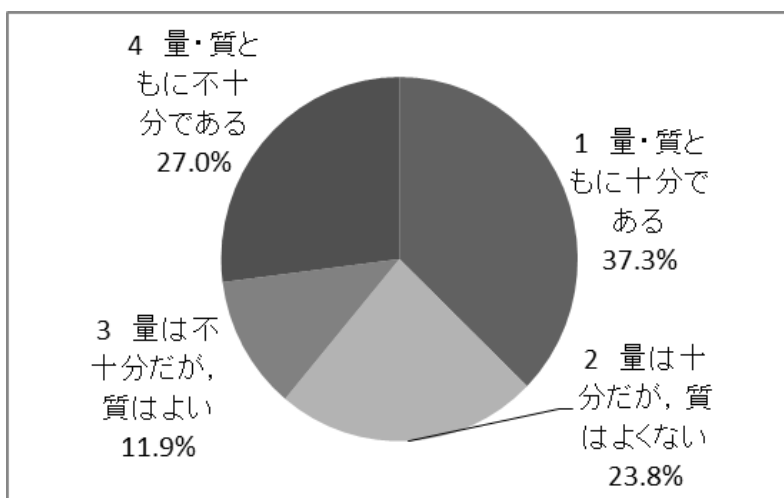
※区ごとの全回答者(青葉区:N=56, N_A=370, 宮城野区:N=29, N_A=156, 若林区:N=25, N_A=167, 太白区:N=41, N_A=263, 泉区:N=41, N_A=272)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。)



- 各区とも傾向は似ており、全体では「8 公園や緑地のみどり」を選んだ人が最も多く、次いで「7 街路樹などの道路のみどり」を選んだ人の割合が高いです。
- 若林区では「4 学校などの公共施設のみどり」「9 神社や寺院のみどり」「10 史跡や名勝などのみどり」を選んだ人の割合が他の区より高いです。
- 泉区では、「1 生垣や庭木などの住宅のみどり」を選んだ人の割合が他の区より高いです。

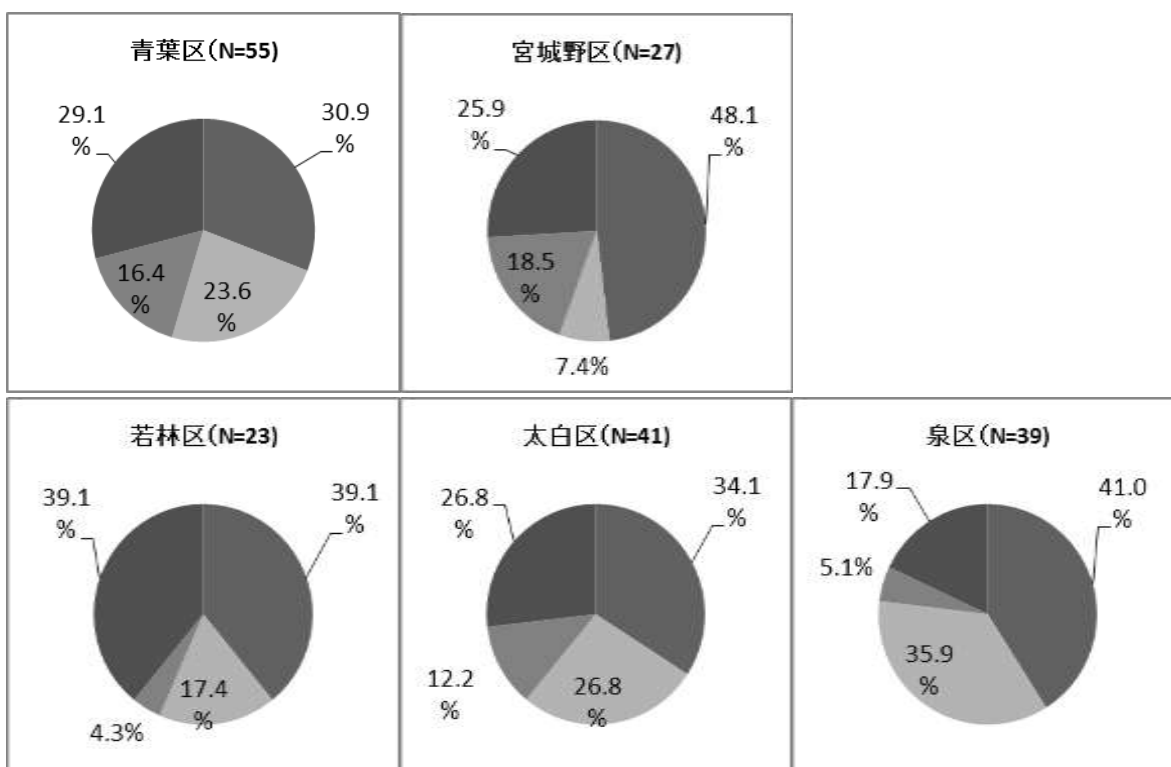
② 現在の身近なみどりの量や質についてどのような印象を持っていますか。

(N=185)



- 量・質ともに十分であると感じている人は全体の 37.3%を占めています。
- 身近なみどりの「量」に満足している人(回答 1+2)は全体の 61.1%を占めています。
- 身近なみどりの「質」に満足している人(回答 1+3)は全体の 49.2%を占めています。

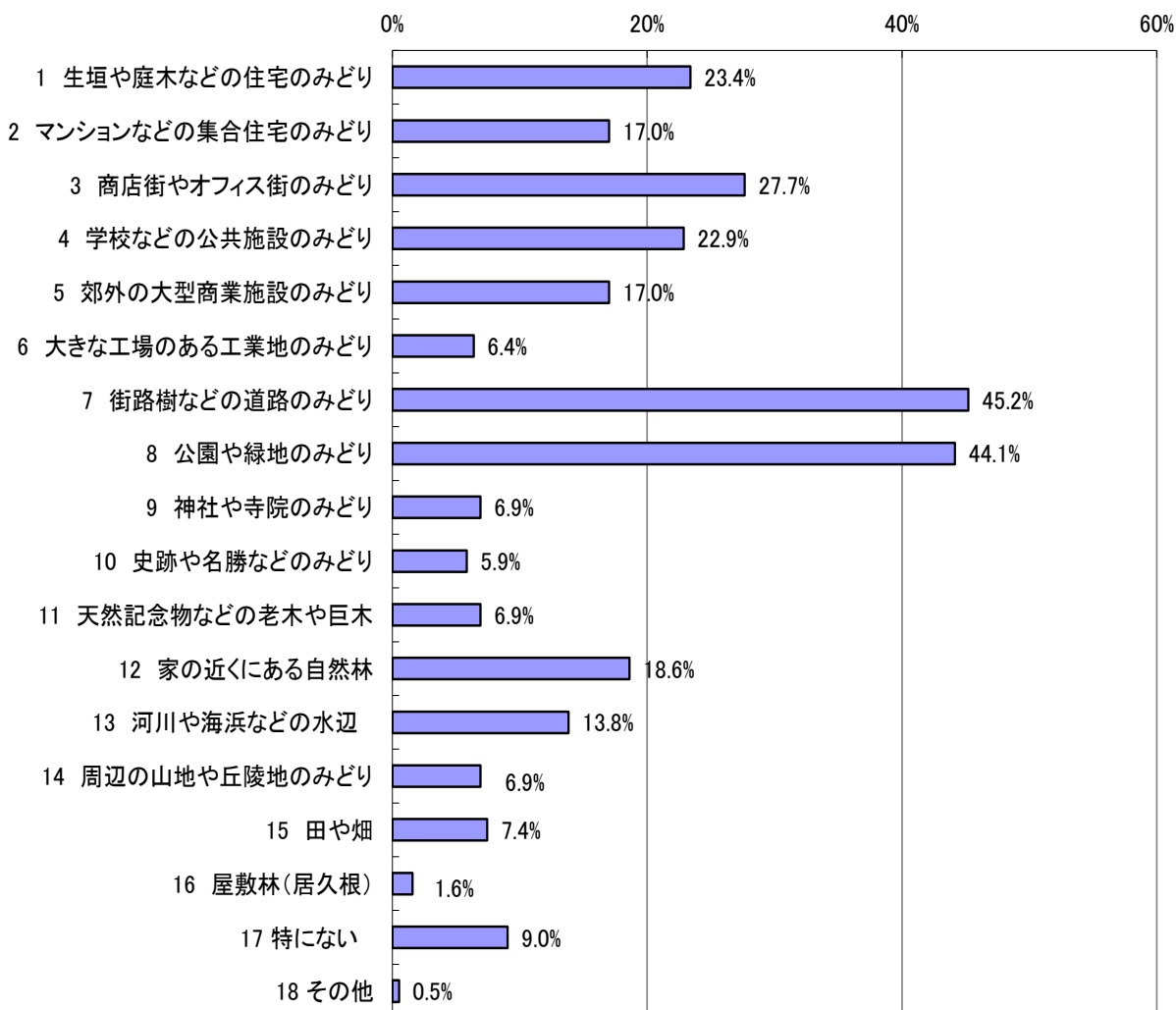
◆ 区別満足度 ◆



- 宮城野区では、48.1%の人が量・質ともに十分であると感じており、他区よりも高いです。
- 若林区では、量・質ともに不十分であると感じている人の割合が 39.1%となっており、他区よりも高いです。
- 身近なみどりの量に注目すると、量に満足している人(回答 1+2)の割合は、5 区とも 50%を超えており、なかでも泉区が一番高く、76.9%となっています。

③ あなたがもっと欲しいと思う、身近なみどりは何ですか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=188, N_A=529)

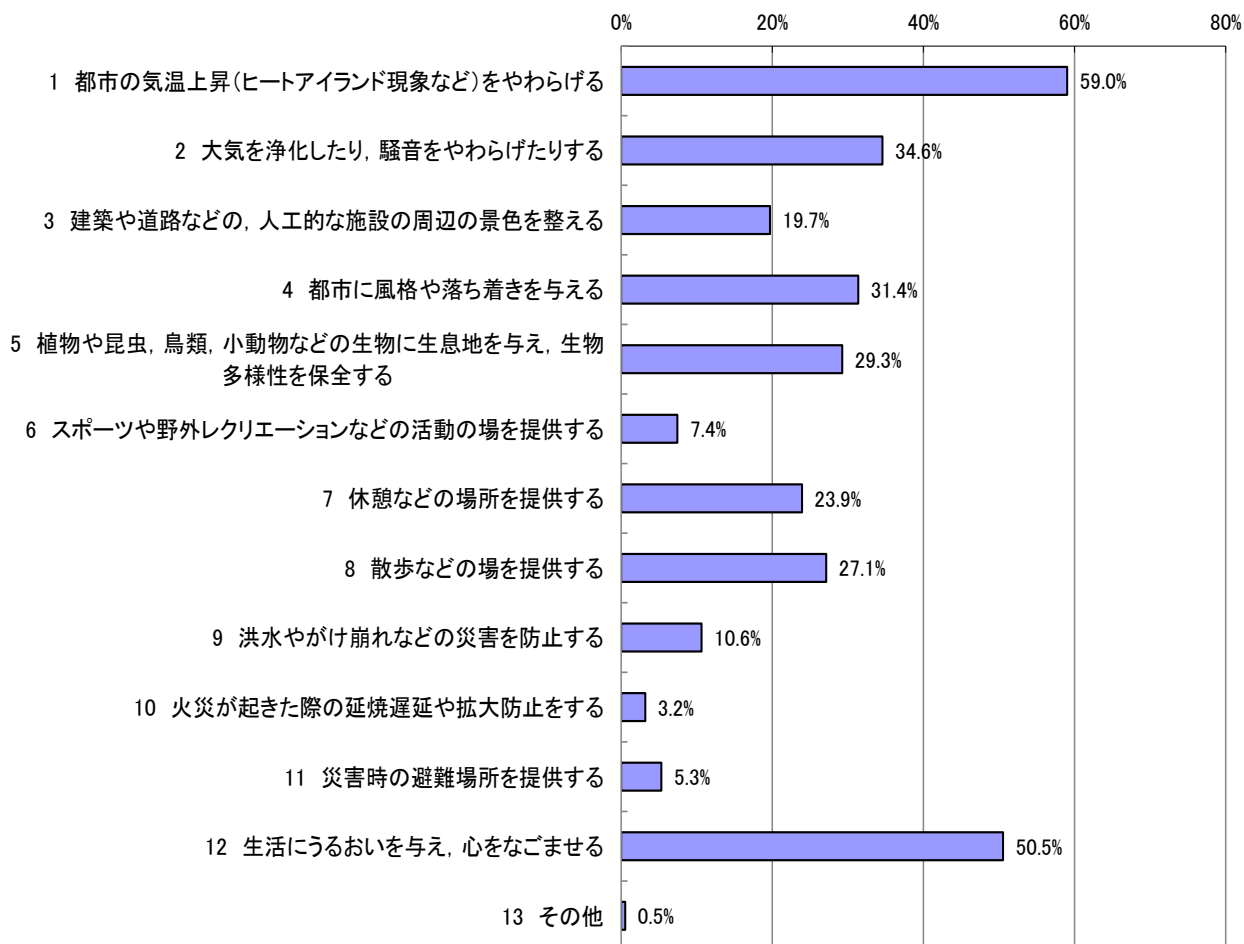
※全回答者(N=188)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 「7 街路樹などの道路のみどり」, 「8 公園や緑地のみどり」を選んだ人が多く, それぞれ 45.2%, 44.1%の人がもっと欲しい身近な緑として選んでいます。
- 次いで「3 商店街やオフィス街のみどり」, 「1 生垣や庭木などの住宅のみどり」, 「4 学校などの公共施設のみどり」, 「12 家の近くにある自然林」を選んだ人が多いです。
- 回答 9~11 の寺社や史跡等のみどりについては, 増やして欲しい身近なみどりとして選んだ人の割合が低いです。

④ 身近なみどりは市民の皆さまの生活の質を高めるための様々な機能を持っています。身近なみどりの機能の中で、特にあなたが期待するものは何ですか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=188, N_A=569)

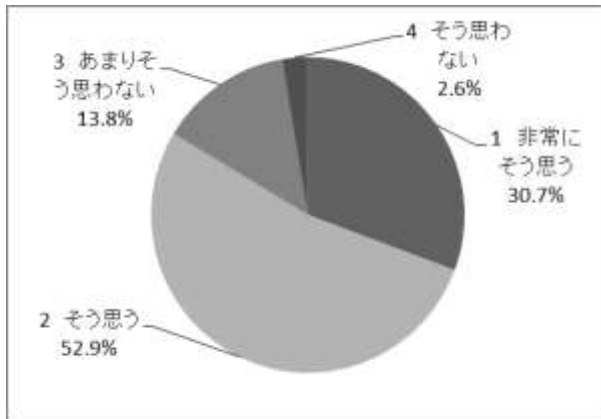
※全回答者(N=188)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 「1 都市の気温上昇をやわらげる」を選んだ人の割合が 59.0%で最も高く、次いで「12 生活にうるおいを与え、心をなごませる」を選んだ人が 50%を超えています。
- 回答 9~11 の 火災や災害時などの非日常的な機能を重視する人は少ないです。
- 「6 スポーツや野外レクリエーションなどの活動の場を提供する」ことに関する機能を重視する人も少ないです。

⑤ 最近、地球環境問題への関心が高まるなかで、良質なみどりの存在が不動産価値を高めるといわれ始めています。あなたは、良質なみどりが不動産の価値を高めることがあると思いますか。

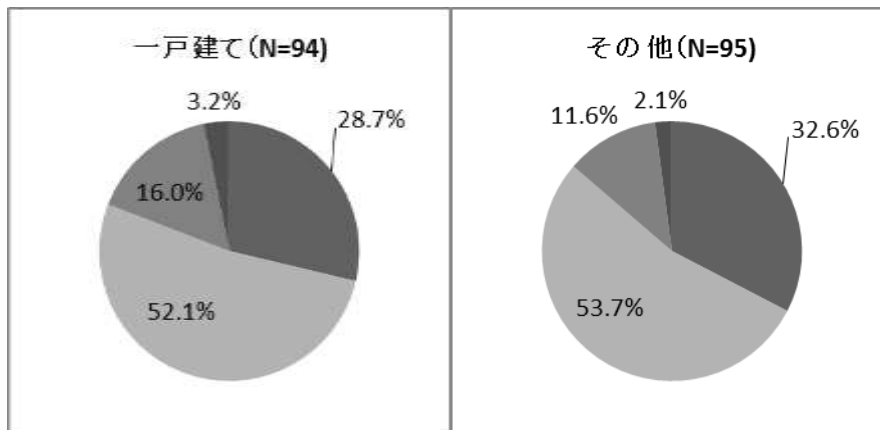
(N=189)



○ 良質なみどりが不動産価値を高めることがあると思う人(回答 1+2)は全体の 83.6%を占めています。

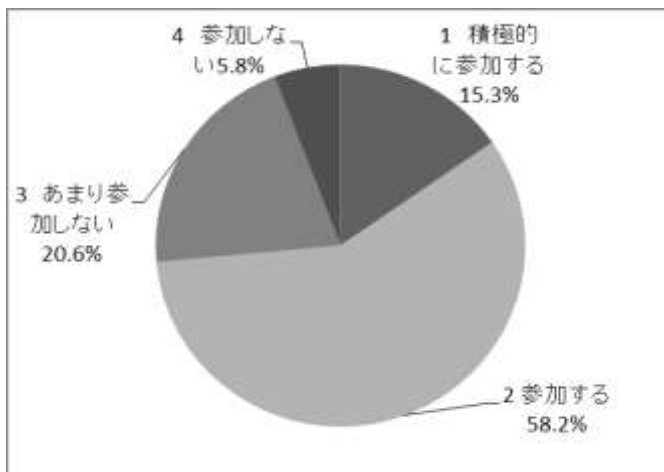
○ 住まい別では、一戸建て以外に住んでいる人が、一戸建てに住んでいる人より、良質なみどりが不動産価値を高めることがあると思う人(回答 1+2)の割合が高かったです。(一戸建て 80.8%, 一戸建て以外 86.3%)

◆住まい別◆



⑥ 良質なみどりの存在があなたのお住まいの不動産の価値を高めるといことであれば、あなたはそのみどりの維持管理活動に参加しますか。

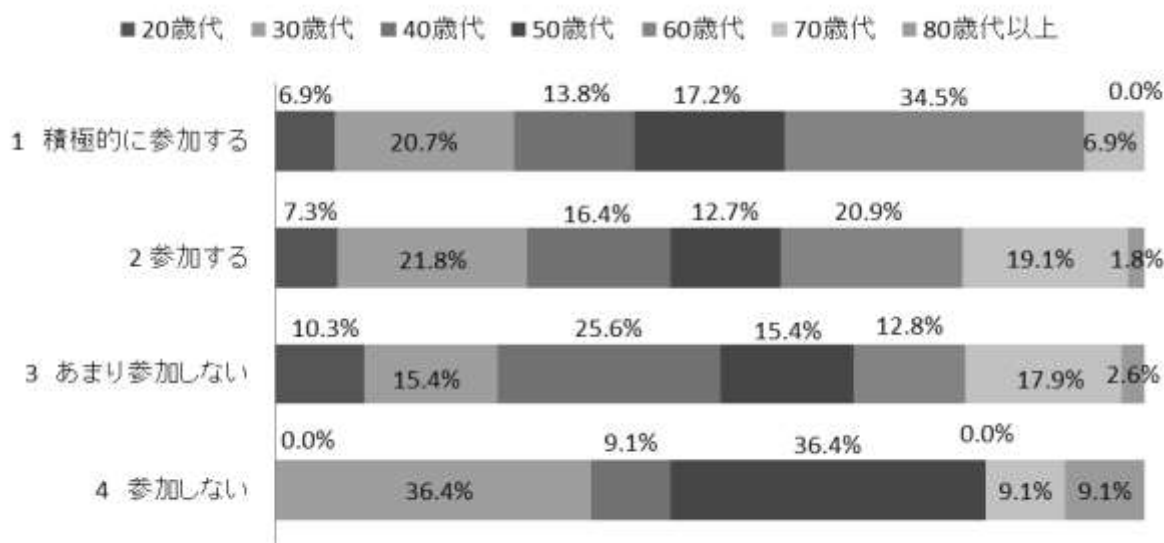
(N=189)



○ みどりの維持管理活動に参加すると回答した人(回答 1+2)は、全体の 73.5%を占めています。

◆年齢別◆ (N=189)

※各回答(1 積極的に参加する:N=29, 2 参加する:N=110, 3 あまり参加しない:N=39, 4 参加しない:N=11)に対する年齢別の割合を示しています。



※年齢毎の回答数 (20 歳代:N=14, 30 歳代:N=40, 40 歳代:N=33, 50 歳代:N=29, 60 歳代:N=38, 70 歳代:N=31, 80 歳代以上:N=4)

- 「1 積極的に参加する」では、60 歳代の割合が高くなっています。
- 「4 参加しない」では、30 歳代、50 歳代の割合が高くなっています。
- 「2 参加する」と回答した 70 歳代の方は、「もう少し若ければ『1 積極的に参加する』と回答する」という記載がありました。

身近な緑についてのまとめ

住んでいる区に関わらず多くの方が身近なみどりとして選んだものは、公園・緑地のみどりや街路樹、そして生垣や庭木などの住宅のみどりとなっています。なかでも、公園・緑地のみどりと街路樹は今後もっと増やして欲しい身近なみどりとしても全体の約半数の人が選んでおり、今後も整備が求められている傾向があると考えられます。

身近なみどりの量と質に関する満足度は、住んでいる区によってばらつきがあるものの、全体では、量・質ともに十分だと感じている人は 4 割弱となっています。

また、身近なみどりのもつ機能の中では、都市の気温上昇をやわらげる機能、生活にうるおいを与え、心をなごませる機能が注目されており、日常の生活環境の改善に関わる機能を生かすような、身近なみどりの創出が必要とされていると考えられます。

良質なみどりの存在が不動産価値を高めることがあるかという問いに関しては、全体の 83.6%の人がそう思うと回答し、73.5%の人がその維持のために管理活動に参加すると答えており、回答した人のみどりに対する意識の高さがうかがえます。

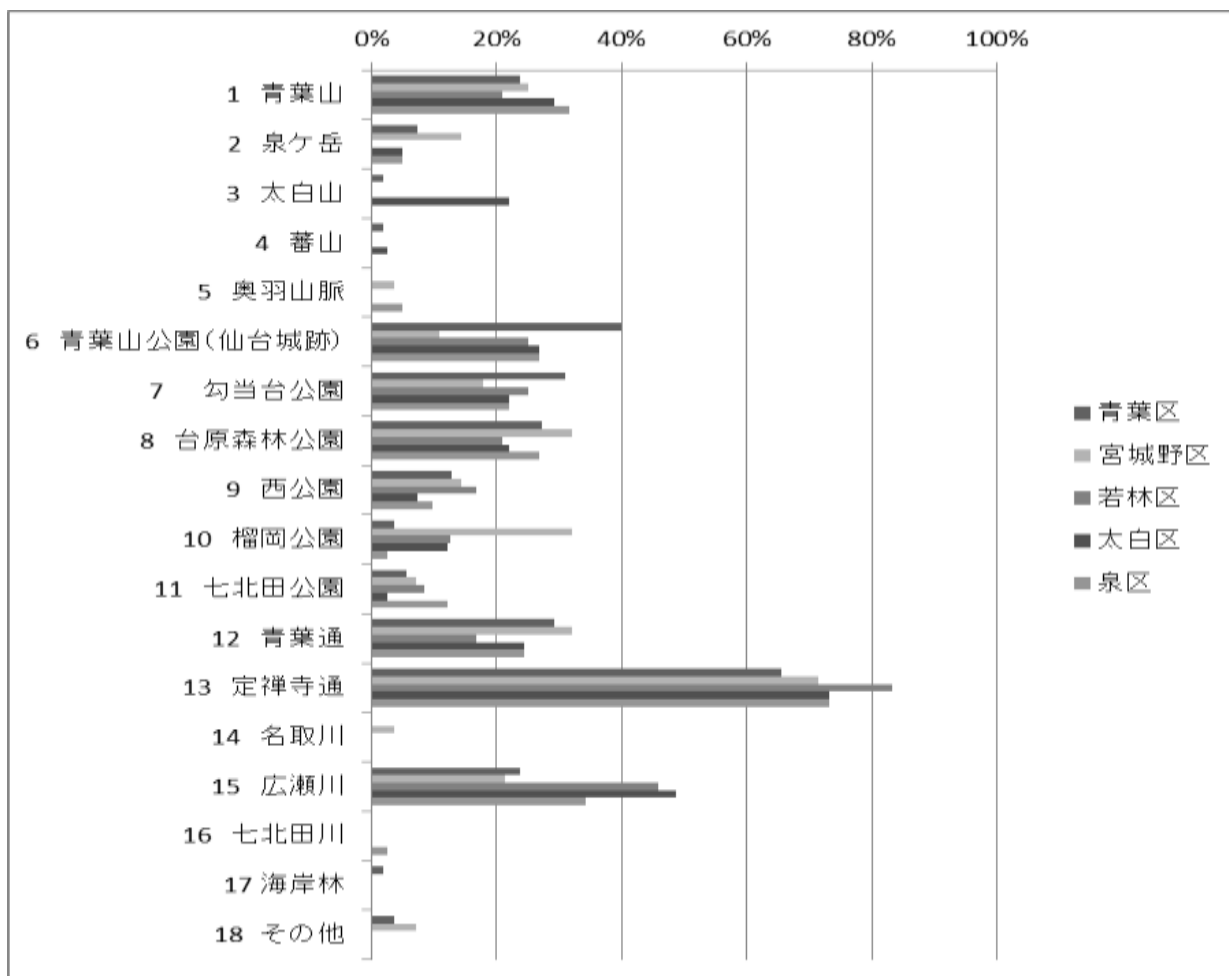
(2) 「杜の都」という言葉について

今から約100年前の明治時代の頃に、屋敷林や社寺林と周辺の青葉山などの丘陵地により街全体が緑に包まれていた姿から仙台市は「杜の都」と呼ばれるようになり、今では仙台市の代名詞となっています。市民の皆さんがこれからの「杜の都・仙台」に期待する、みどり豊かな街の姿について質問をしました。

① 「杜の都」を代表するみどりとして、あなたがイメージするものは何ですか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=189, N_A=536)

(青葉区:N=55, N_A=153, 宮城野区:N=28, N_A=82, 若林区:N=24, N_A=66, 太白区:N=41, N_A=122, 泉区:N=41, N_A=113)

※区ごとの全回答者のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。

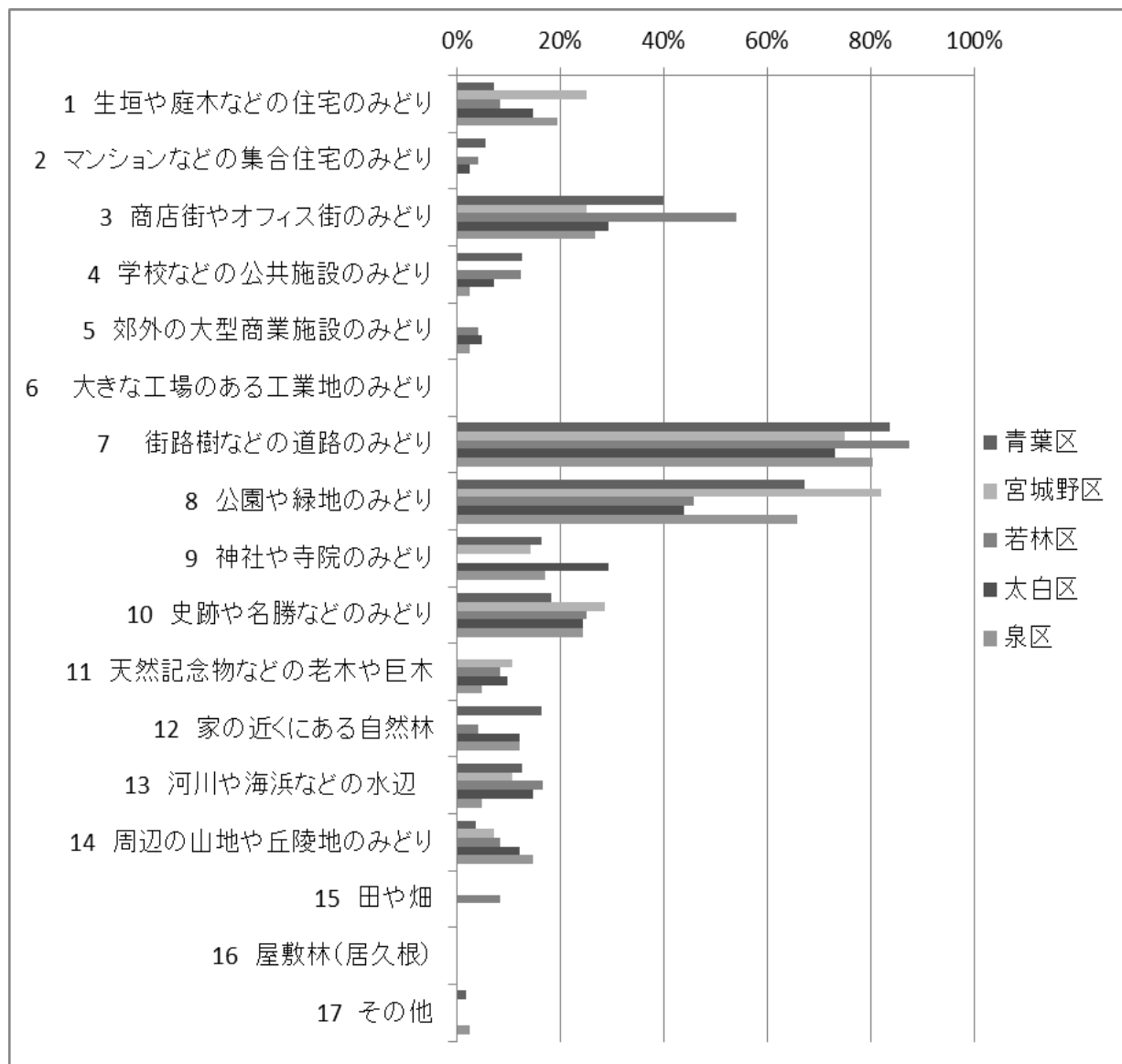


- 「13 定禅寺通」を選んだ人の割合は、全体の72.0%で最も高いです。次いで「15 広瀬川」(33.9%), 「6 青葉山公園(仙台城跡)」(28.0%)となっています。
- 「1 青葉山」は居住区にかかわらず各区で「杜の都」をイメージする人が多いです。
- その他は居住区毎により身近なみどりをイメージする人が多く、青葉区では「6 青葉山公園(仙台城跡)」 「7 勾当台公園」、宮城野区では「10 榴岡公園」、若林区では「15 広瀬川」、太白区では「3 太白山」、泉区では「11 七北田公園」が他区と比較して多いです。
- 泉区では、意外にも泉ヶ岳をイメージする人が青葉区、宮城野区よりも少なかったです。

② 「杜の都」という言葉からあなたが思い描く街は、どのようなみどりがたくさんある街ですか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=189, N_A=532)

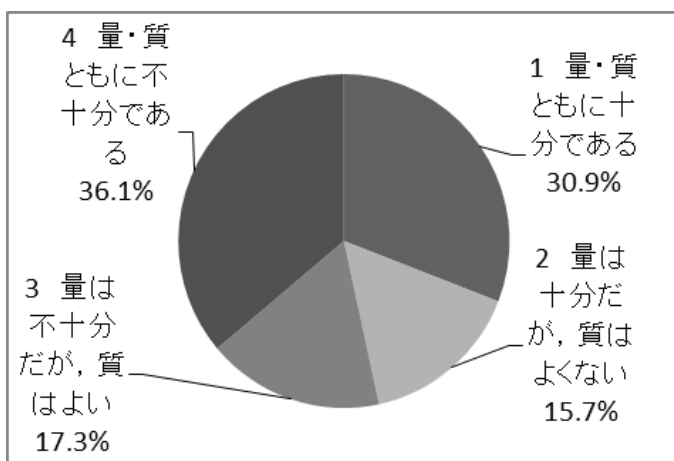
(青葉区:N=55, N_A=157, 宮城野区:N=28, N_A=78, 若林区:N=24, N_A=69, 太白区:N=41, N_A=114, 泉区:N=41, N_A=114)

※区ごとの全回答者のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



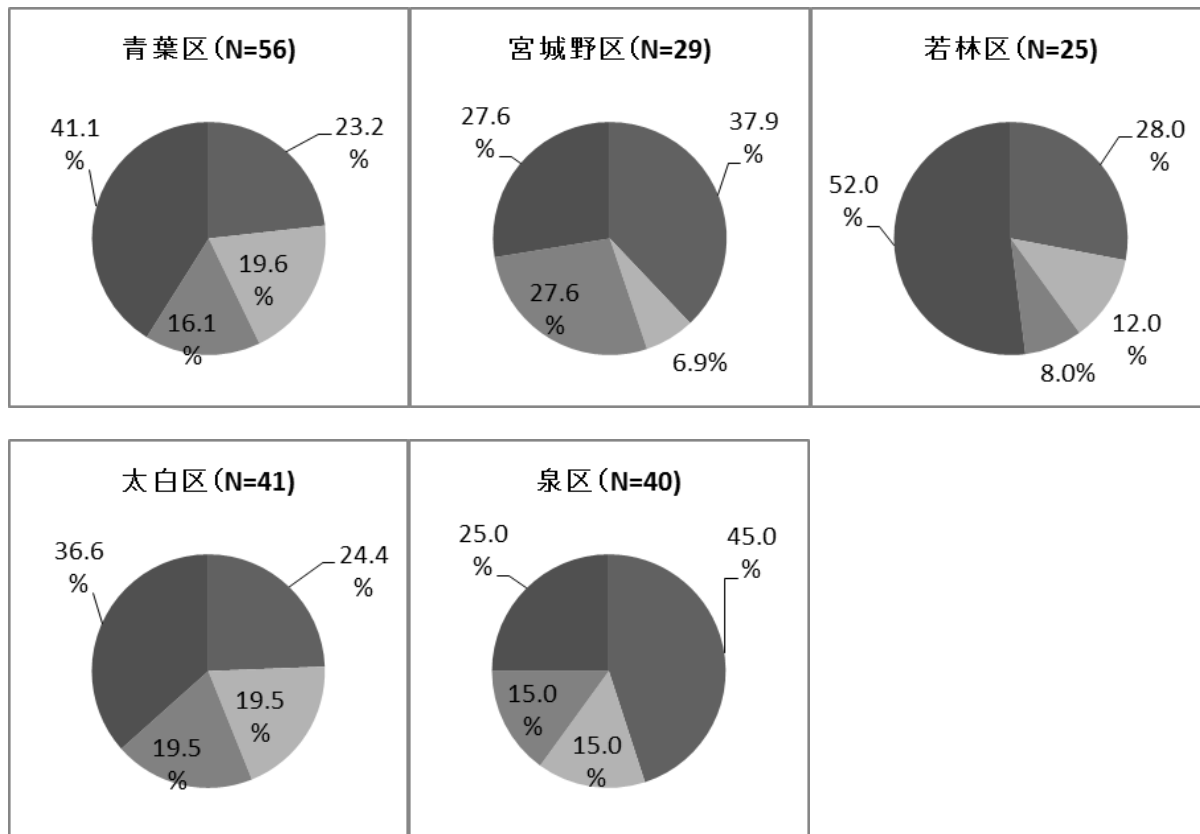
- 「7 街路樹などの道路のみどり」を選んだ人の割合は全体の 79.9%で最も高いです。次いで「8 公園や緑地のみどり」が 61.4%, 「3 商店街やオフィスのみどり」が 34.4%となっています。
- 「9 神社や寺院のみどり」を選んだ人の割合は全体の 16.9%, 「10 史跡や名勝などのみどり」が 23.3%となっていますが、「16 屋敷林(居久根)」を選んだ人は一人もいなく、かつて「杜の都・仙台」を代表していたみどりが、今ではその印象がなくなりつつあります。
- 宮城野区では他区よりも「1 生垣や庭木などの住宅のみどり」がたくさんある街を「杜の都」という言葉から思い描く街として挙げる人の割合が高いです。
- 若林区では他区よりも「3 商店街やオフィスのみどり」がたくさんある街を「杜の都」という言葉から思い描く街として挙げる人の割合が高いです。

③ 「杜の都」という言葉から現在の仙台をみたときに、あなたはみどりの量や質についてどのような印象を持っていますか。(N= 191)



- 量・質ともに十分であると感じている人は全体の約 3 割となっていますが、残りの 7 割の人(回答 2+3+4)が、量・質いずれも、又はいずれかが不十分だと感じています。
- 質が不十分と感じている人(回答 2+4)は 51.8%です。
- 量が不十分と感じている人(回答 3+4)は 53.4%です。

◆ 区別満足度 ◆

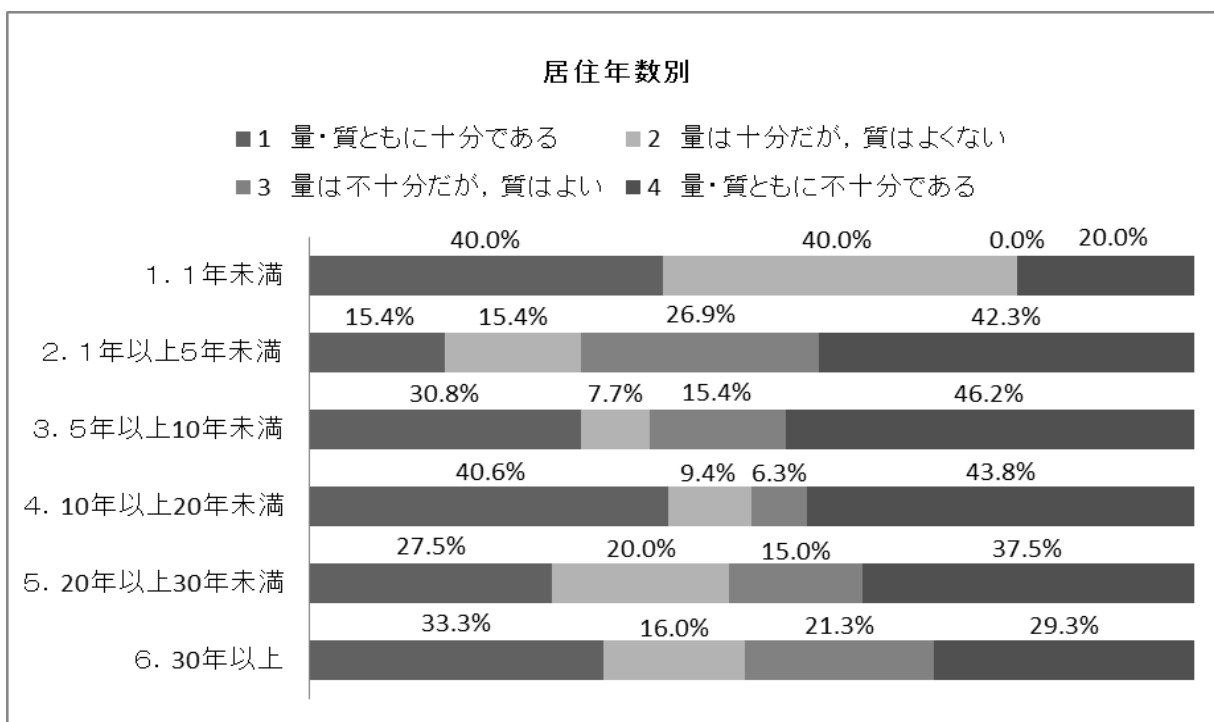


- 住んでいる区ごとに満足度にばらつきがあり、特に若林区では量・質ともに不十分であると答えた人の割合が他区よりも高いです。
- 次いで青葉区・太白区も量・質ともに不十分であると答えた人の割合が高いです。
- 宮城野区・泉区では量・質ともに十分であると答えた人の割合が他区より高いです。

◆居住年数別満足度◆

居住年数ごとの全回答を 100 とした場合の、各回答の割合

(1 年未満:N=5, 1 年以上 5 年未満:N=26, 5 年以上 10 年未満:N=13, 10 年以上 20 年未満:N=32, 20 年以上 30 年未満:N=40, 30 年以上:N=75)



- 居住年数が 10 年以上 20 年未満の人では、量・質ともに十分だと感じている人の割合が一番高いです。
- 居住年数が 1 年未満の人では、80%が量に関しては十分である(回答 1+2)と感じていて、他の居住年数の人の割合よりも高いです。
- 居住年数が 1 年以上 20 年未満の人では、それぞれの回答者のうち 4 割を超えた人が量・質ともに不十分だと感じています。

「杜の都」のみどりについてのまとめ

かつて「杜の都・仙台」を代表していた屋敷林や社寺林は、現在の「杜の都」のみどりとしての印象は小さく、それに代わって、街路樹や公園・緑地のみどりが「杜の都」のみどりの印象となっています。

「杜の都・仙台」として思い描く街に必要なみどりとしても、街路樹と公園・緑地のみどりが上位となっていますが、次いで商店街やオフィス街のみどりについても多くの人が選んでいます。

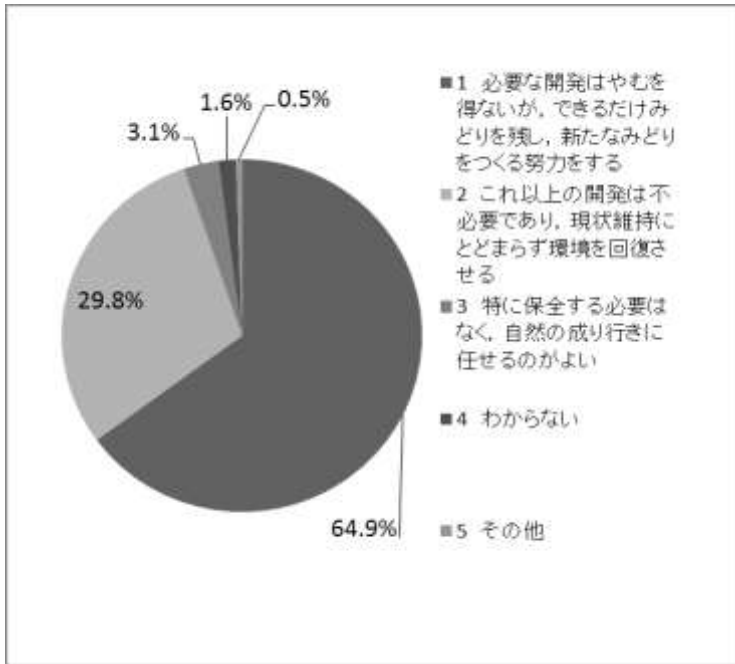
満足度についてみると、約 7 割の人が量・質いずれも又はいずれかが不十分だと感じていることから、今後も都心部での積極的な緑化が求められていると考えられます。

(3) これから先の仙台市のみどりのまちづくりについて

みどり豊かな仙台市をつくっていくための、市街地にある自然のみどりの保全のあり方や、公園・街路樹・河川の整備のあり方等について質問をしました。

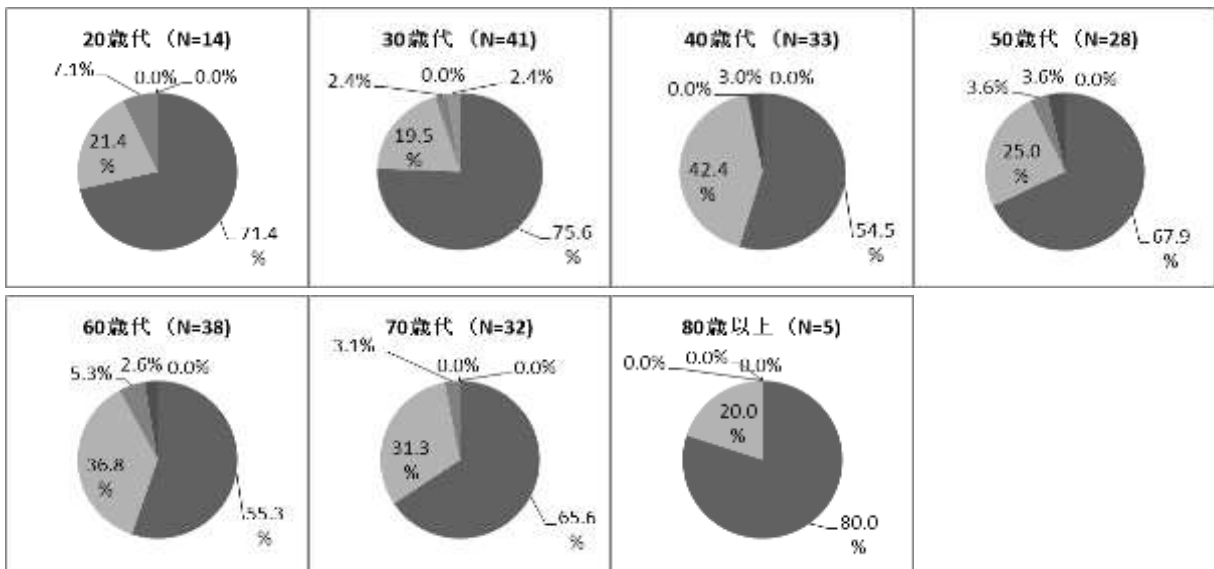
◆樹林地などの自然のみどりの保全について

① 市街地にある樹林地などの自然のみどりの保全と、都市開発との調和について、どのようにしていくべきだと思いますか。(N=191)



- 開発については、「1 必要な開発はやむを得ないが、できるだけみどりを残し、新たなみどりをつくる努力をする」と考えている人が最も多く、全体の 64.9%を占めています。
- 「3 特に保全する必要はなく、自然の成り行きに任せるのがよい」と考えている人は 3.1%で、ほとんどの人がみどりの保全が必要である(回答 1+2)と考えています。

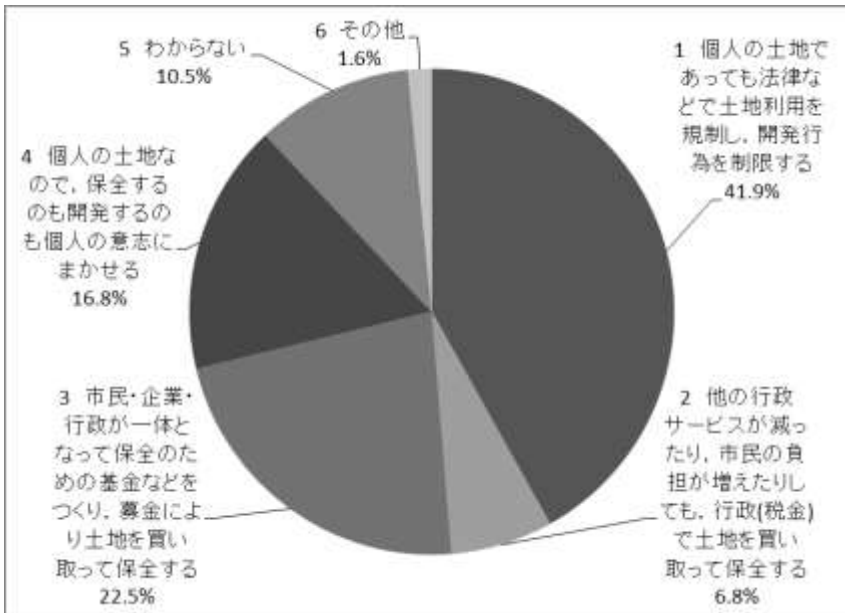
◆年齢別◆



- 年齢別にみると、20歳代、30歳代、80歳以上で、7割以上の方が「1 必要な開発はやむを得ないが、できるだけみどりを残し、新たなみどりをつくる努力をする」を選んでいます。
- 他の年代でも、過半数の人が1を選んでおり、残りの大半も「2 これ以上の開発は不必要であり、現状維持にとどまらず環境を回復させる」を選んでいます。

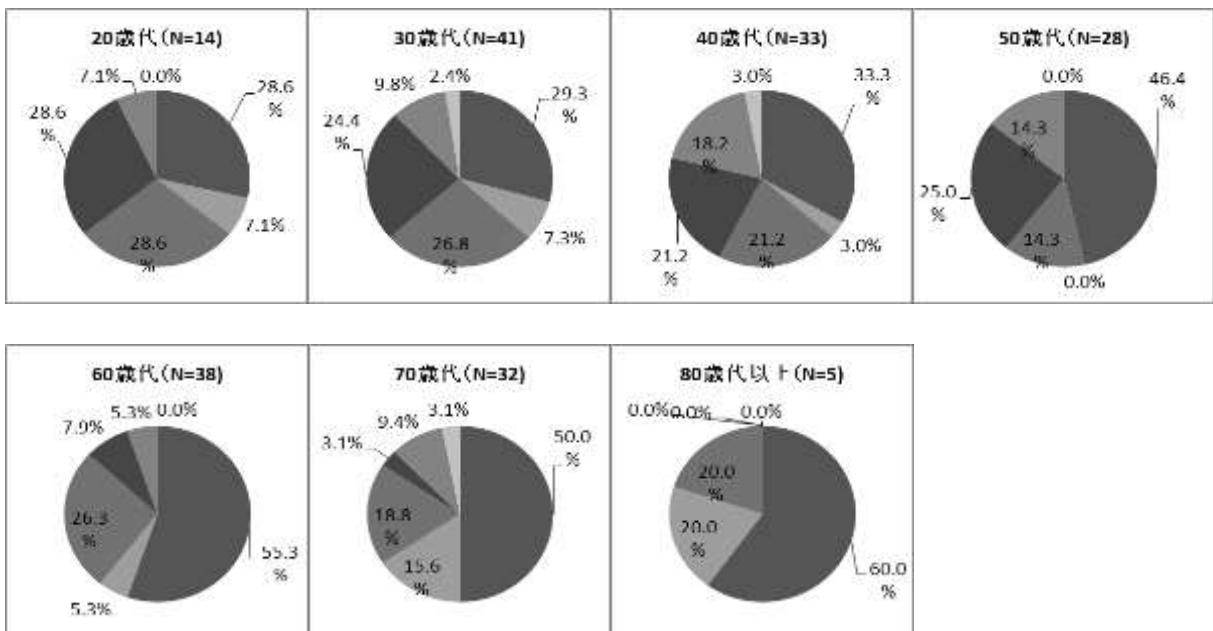
② 市街地にある樹林地などの自然のみどりの多くは、個人や企業の土地となっています。これらを保全する方法として、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。

(N=191)



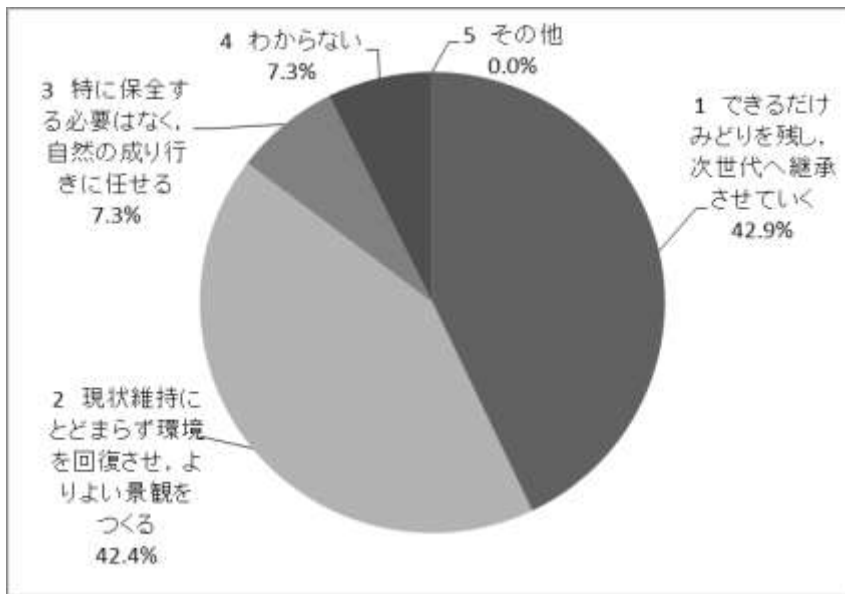
- 個人の土地であっても何らかの手法により積極的に保全すべきだとする意見(回答1+2+3)が71.2%を占めています。
- 保全の方法に関しては、法律などによる土地利用の規制と、基金による保全という2つの考え方が多く、合わせて全体の64.4%を占めています。
- 税金の投入については、6.8%となっています。

◆年齢別◆



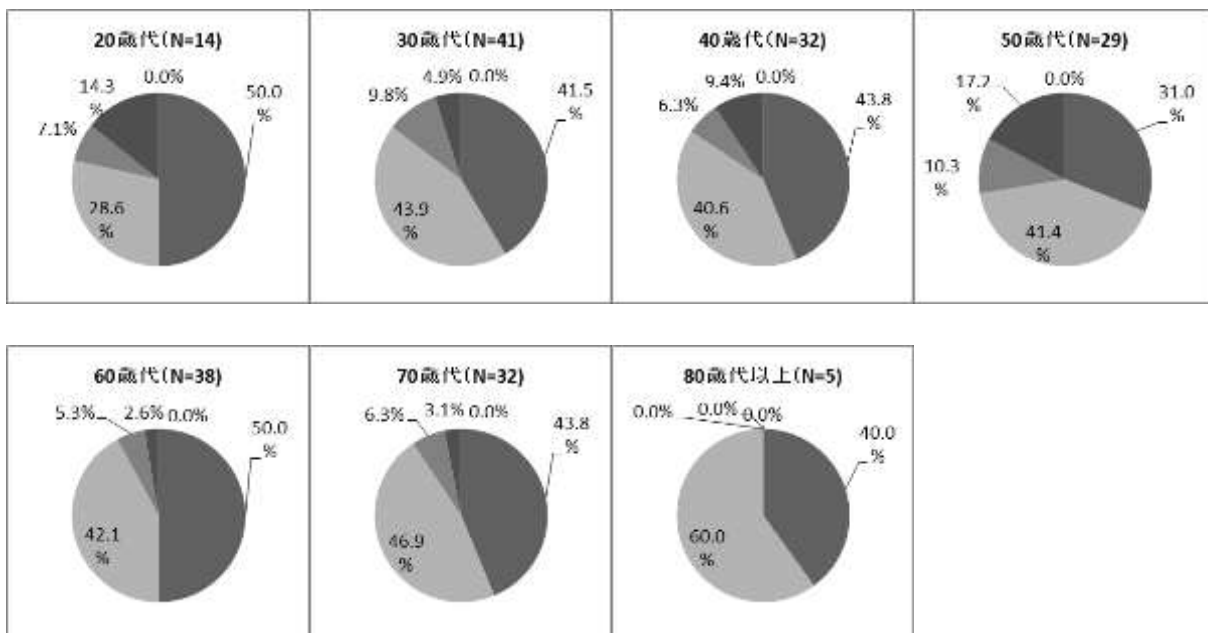
- 年代が進むにつれて、「1 個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限する」を選んだ人の割合が高くなる傾向にあり、60歳代以上では過半数を超えています。
- 50歳代では、「2 他の行政サービスが減ったり、市民の負担が増えたりしても、行政(税金)で土地を買って保全する」を選んだ人はいませんでした。

③ 市街地や田園地帯に点在する屋敷林(居久根)や社寺林の保全について、どのようにしていくべきだと思いますか。(N=191)



○ 「3 特に保全する必要はなく、自然の成りに任せるのがよい」と考えている人は7.3%で、ほとんどの人が屋敷林、社寺林の保全が必要である(回答1+2)と考えています。

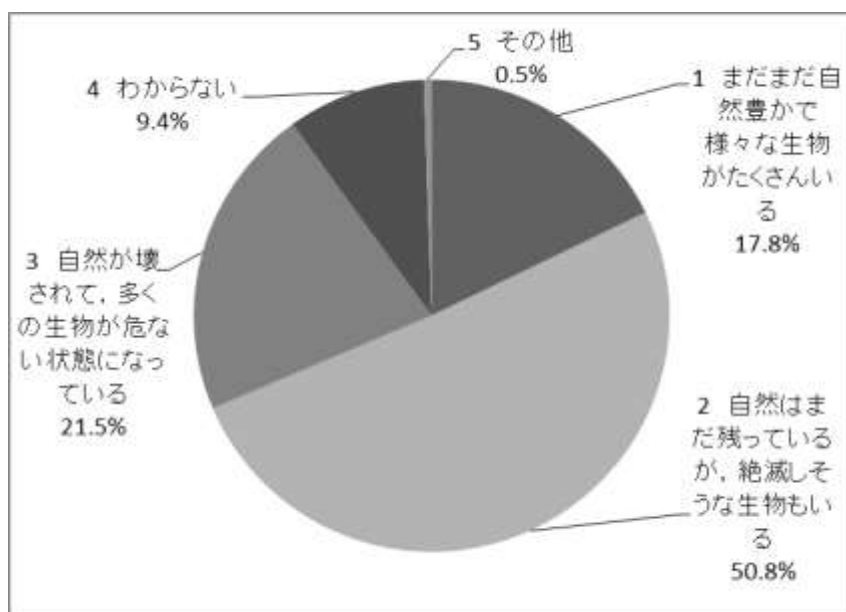
◆年齢別◆



- 20歳代と60歳代では「1 できるだけみどりを残し、時代に継承させていく」と考えている人が半数を占めています。
- 30歳代と50歳代では「3 特に保全する必要はなく、自然の成りに任せるのがよい」と考えている人が、それぞれ9.8%、10.3%と他の世代に比べて高い割合となっています。
- 20歳代、40歳代、50歳代では、「4 わからない」とした人の割合が他の世代に比べて高いです。

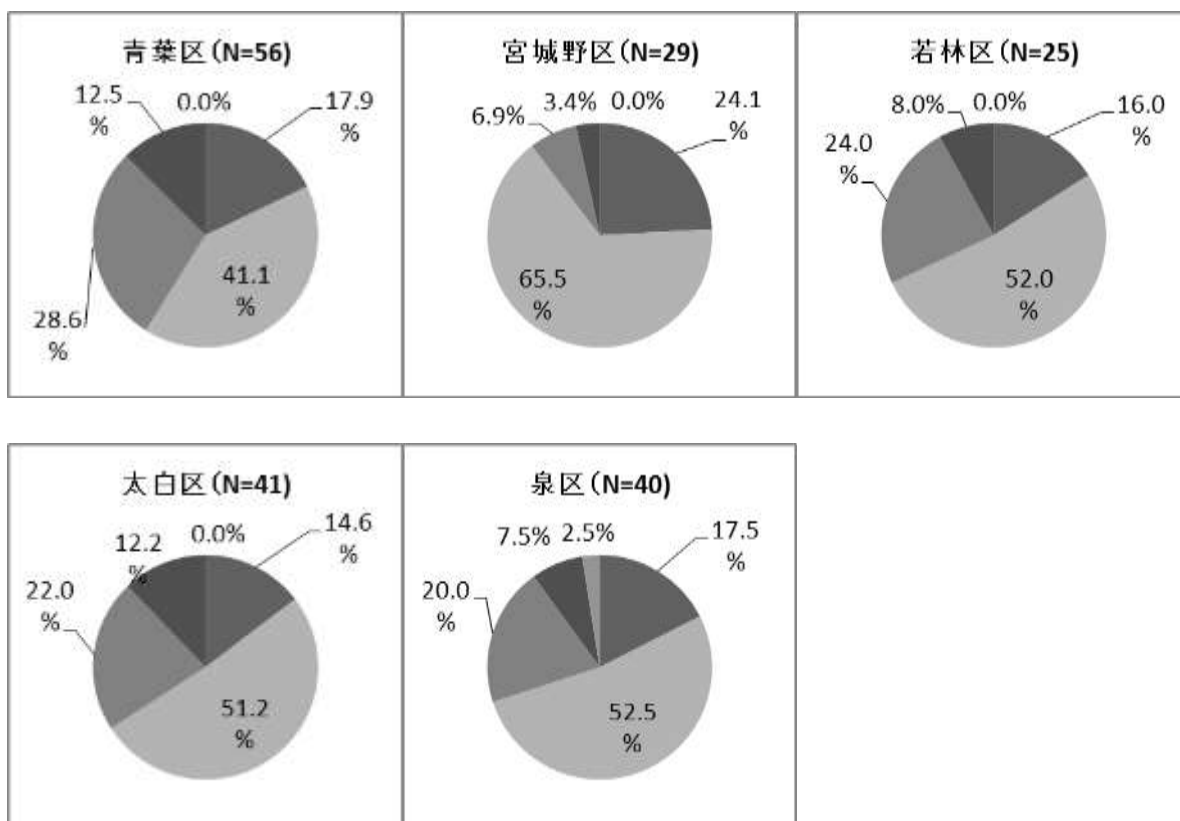
④ 仙台市の生物多様性の現状について、あなたはどのような印象を持っていますか。

(N=191)



- 「2 自然はまだ残っているが、絶滅しそうな生物もいる」という印象を半数以上の人が持っています。
- 「3 自然が壊されて、多くの生物が危ない状況になっている」と危機感を持っている人が、20%を超えています。

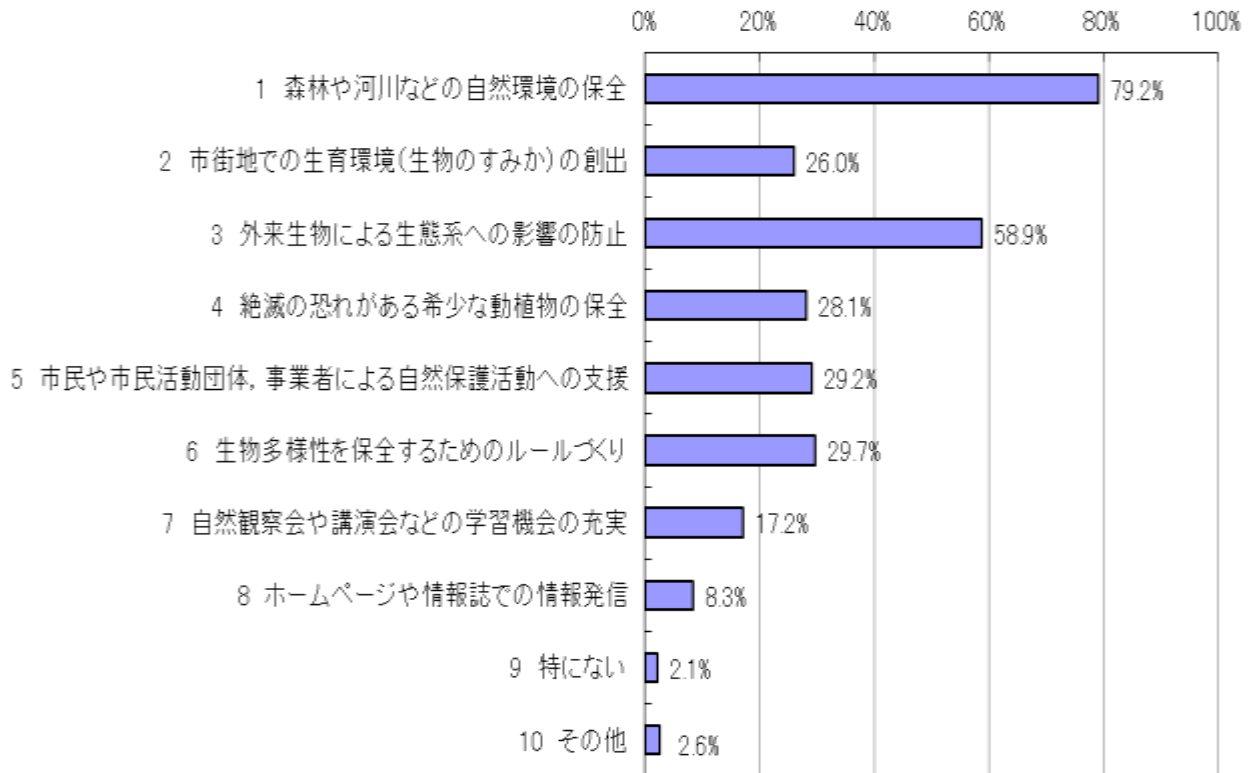
◆居住区別◆



- 青葉区では、「3 自然が壊されて、多くの生物が危ない状況になっている」を選択している人の割合が28.6%と他区よりも高いです。
- 宮城野区では、「1 まだまだ自然豊かで様々な生物がたくさんいる」「2 自然はまだ残っているが、絶滅しそうな生物もいる」を選択している人の割合が89.6%となっており、自然がまだ残っていると感じている人の割合が他区よりかなり高いです。

⑤ 生物多様性を保全・回復するために、特に必要な取り組みは何だと思えますか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=192, N_A=540)

※全回答者(N=192)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



○ 「1 森林や河川などの自然環境の保全」機能を選んだ人の割合が 79.2%で最も多く、次いで「3 外来生物による生態系への影響の防止」機能を選んだ人が 50%を超えて多いです。

市街地の樹林地などの自然のみどりの保全についてのまとめ

市街地にある樹林地などの自然については、できるだけみどりを残すべき、環境を回復させるべきだと考えている人が、全体の約 95%と大部分を占めています。個人や企業の土地である場合でも、積極的に保全すべきだと考えている人が約 70%を占めており、保全の手法としては、税金で土地を買い取って保全するよりも、法律などによる土地利用の抑制や基金により保全するという考えが多いです。

また、屋敷林や社寺林の保全についても、できるだけみどりを残し次世代へ継承させていくべき、環境を回復させ良い景観をつくるべきだと考えている人が、全体の約 85%と大部分を占めています。

生物多様性の現状については、絶滅しそうな生物がいる、自然が壊されているという印象を持っている人が約 70%を占めており、保全・回復するためには、森林や河川などの自然環境の保全や、外来生物による生態系への影響の防止が必要という人が多いです。

◆市街地の緑化について

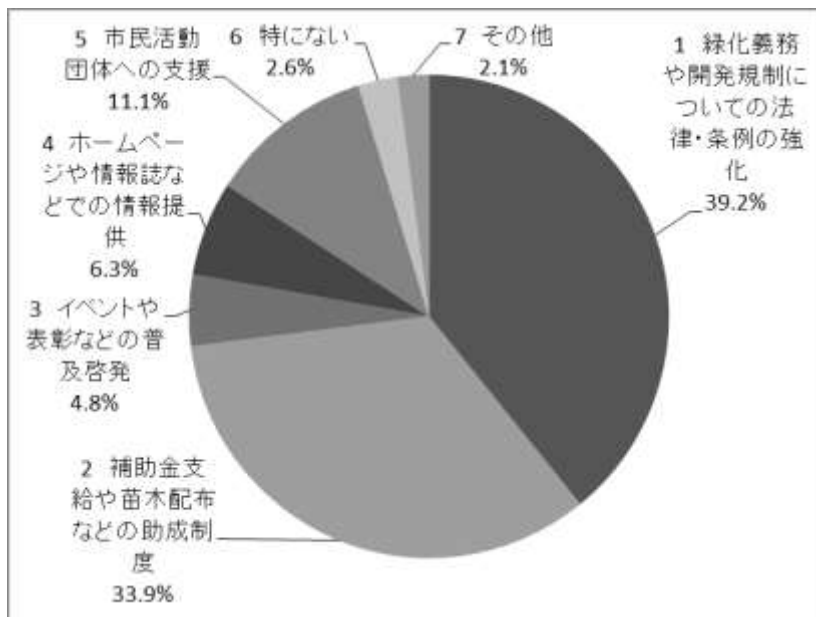
⑥ 市街地の緑化を進めるにあたり、どこの緑化に重点を置くべきだと思いますか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=190, N_A=535)

※全回答者(N=190)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 身近なみどりである「7 道路(街路樹など)」と「8 公園や緑地」を選んでいる人が多いです。
- 次に、集客施設のある「3 商店街やオフィス街」を選んだ人が多いです。
- これらのことから、多くの人が目にする場所のみどりが必要とされている傾向があると考えられます。

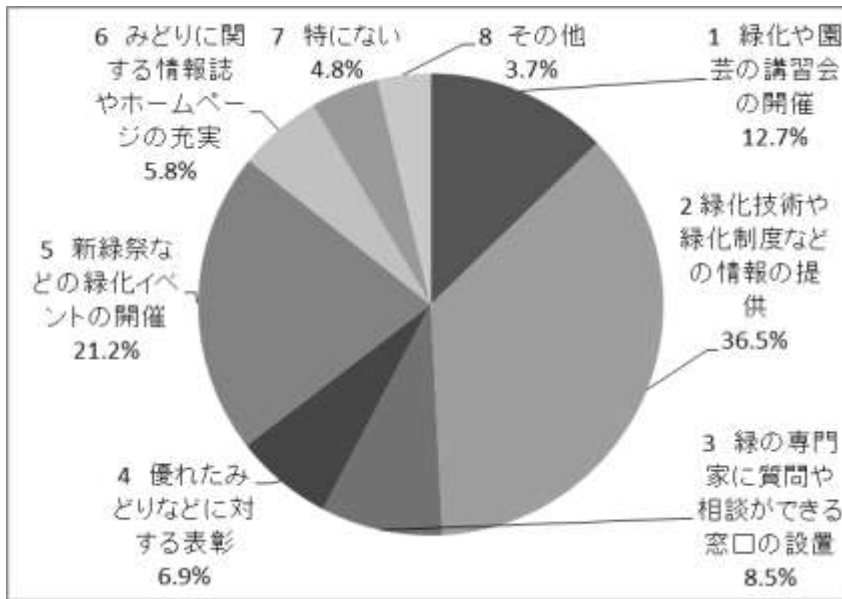
⑦ 市街地のみどりを増やすために行政が行う取り組みで、特に必要なものは何だと思いますか。(N=189)



- 「1 緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化」を選んだ人が39.2%、「2 補助金支給や苗木配布などの助成制度」を選んだ人が33.9%で多いです。
- これらのことから、義務や規制、助成制度などの法律や制度の整備が必要とされていると考えられます。

⑧ あなたが緑化活動を行う場合に、行政の支援の中で、特に必要なものは何だと思いませんか。

(N=189)



- 「2 緑化技術や緑化制度などの情報の提供」を選択した人が、36.5%と最も多いです。
- 次いで多いのは、「5 新緑祭などの緑化イベントの開催」で、21.2%の人が選んでいます。

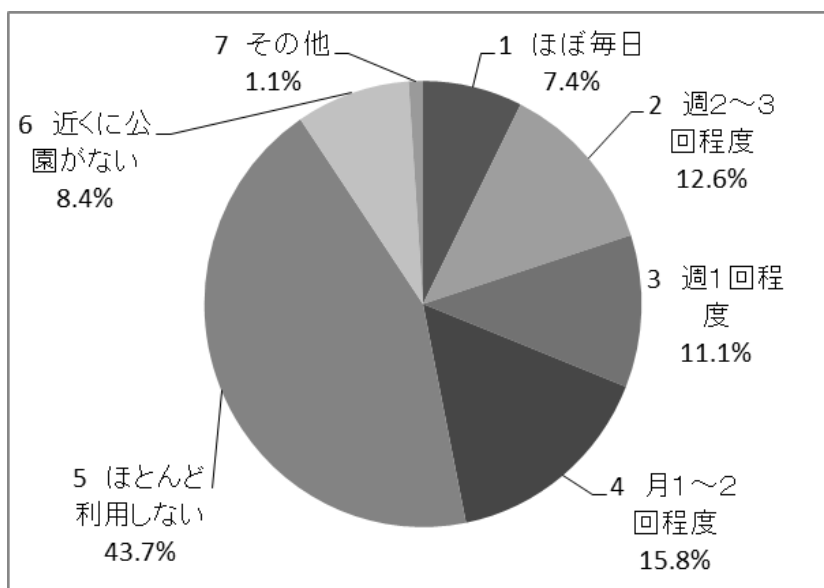
市街地の緑化についてのまとめ

市街地の緑化という点では、街路樹と公園・緑地などの身近なみどりの他に、商店街やオフィス街の緑化や、駅周辺等の人が集まるところの緑化など、多くの人が目にする場所の緑化が求められている傾向がありました。

市街地のみどりを増やすために必要な取り組み・支援については、法律・制度の整備のほか、緑化技術・制度に関する情報提供やイベントの開催など、多様な支援が必要であると考えられます。

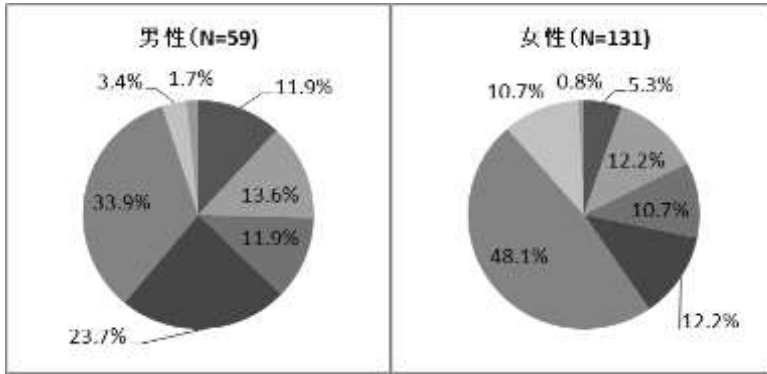
◆公園について

⑨ あなたはお住まいの近くにある公園をどれくらい利用しますか。(N=190)



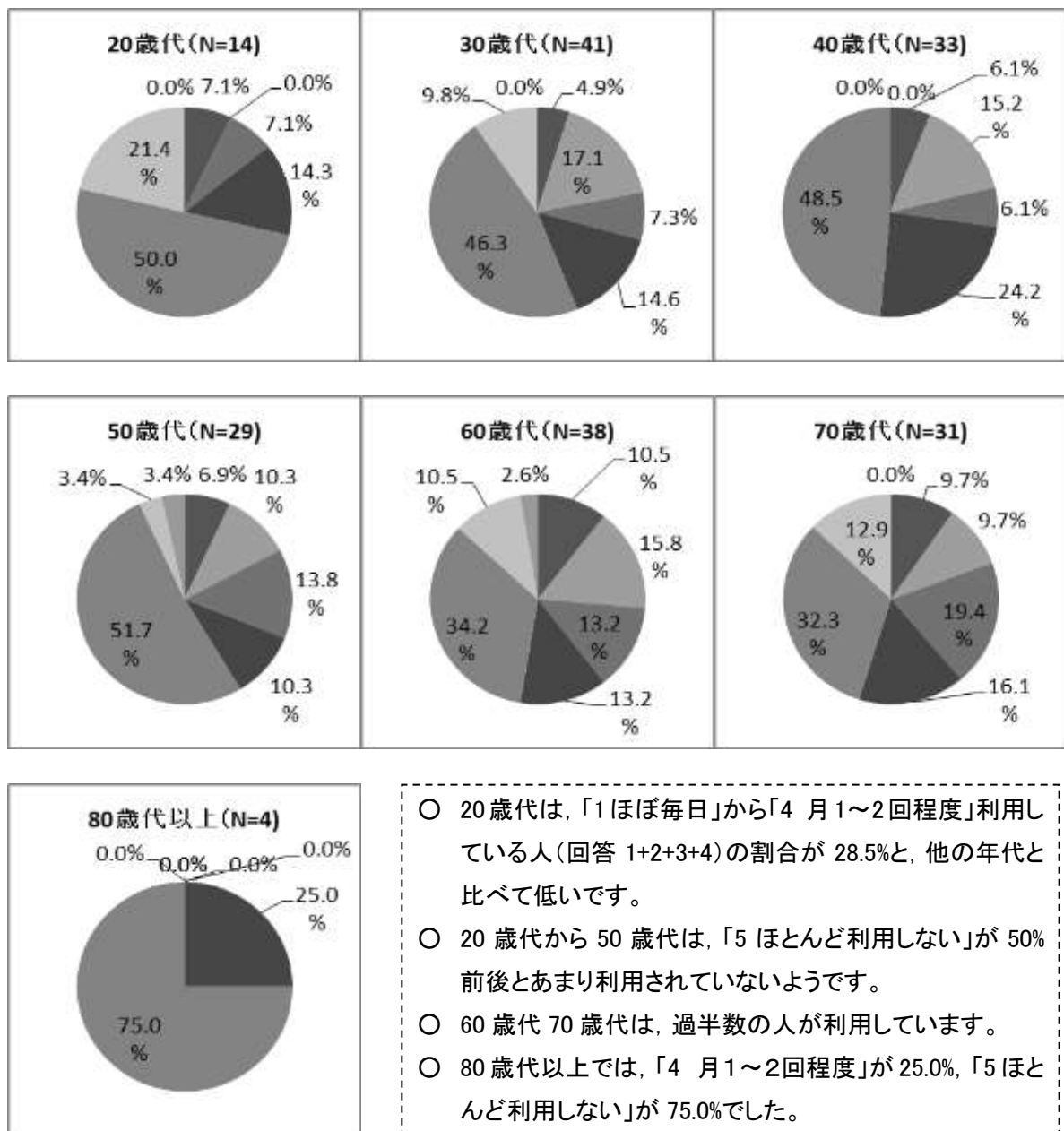
- 「1 ほぼ毎日」から「4 月1~2回程度」公園を利用している人(回答1+2+3+4)は、全体の46.9%を占めています。
- 「5 ほとんど利用しない」人が全体の43.7%となっています。

◆性別◆



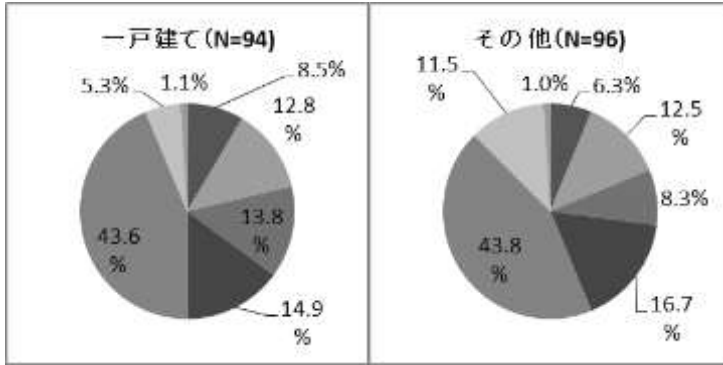
- 「1 ほぼ毎日」から「4 月 1～2 回程度」利用している人(回答 1+2+3+4)の割合は、男性 (61.1%) のほうが、女性 (40.4%) より高いです。
- 女性は、48.1%の人が「5 ほとんど利用しない」を選んでいます。

◆年齢別◆



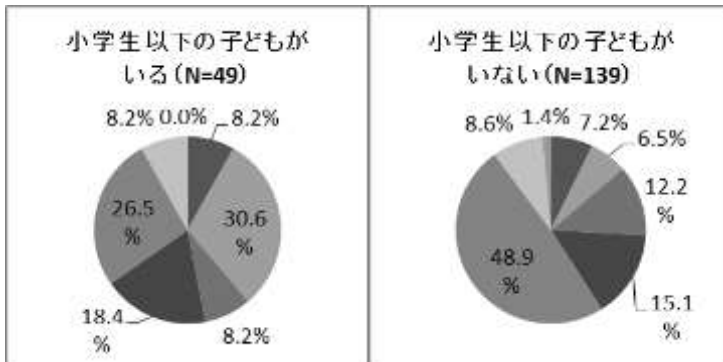
- 20歳代は、「1 ほぼ毎日」から「4 月 1～2 回程度」利用している人(回答 1+2+3+4)の割合が 28.5%と、他の年代と比べて低いです。
- 20歳代から 50歳代は、「5 ほとんど利用しない」が 50%前後とあまり利用されていないようです。
- 60歳代 70歳代は、過半数の人が利用しています。
- 80歳代以上では、「4 月 1～2 回程度」が 25.0%、「5 ほとんど利用しない」が 75.0%でした。

◆住まい別◆



- 一戸建てに住んでいる人と、その他集合住宅等に住んでいる人では、大きな相違はみられませんでした。
- しかし、「6 近くに公園がない」と回答した人の割合をみると、一戸建て以外の人(11.5%)のほうが、一戸建ての人(5.3%)よりも高いです。

◆小学生以下の子ども同居別◆ (N=188)

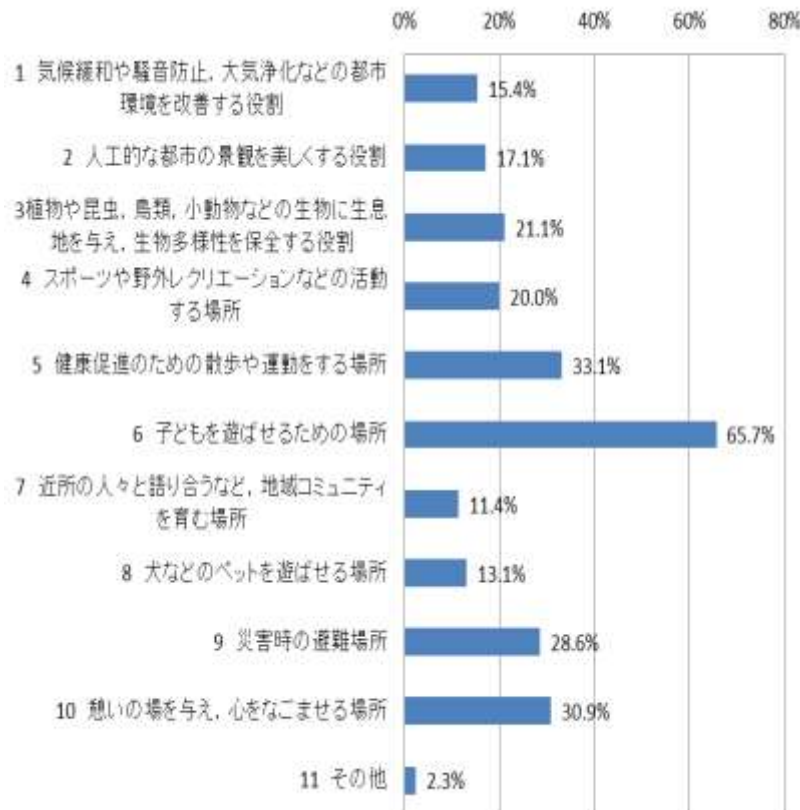


- 「1 ほぼ毎日」から「4 月 1~2 回程度」利用している人(回答 1+2+3+4)の割合は、小学生以下の子どもがいる人(65.4%)のほうが、いない人(41.0%)よりも高いです。

⑩ あなたのお住まいの近くにある公園は、どのような役割を持っていると感じていますか。

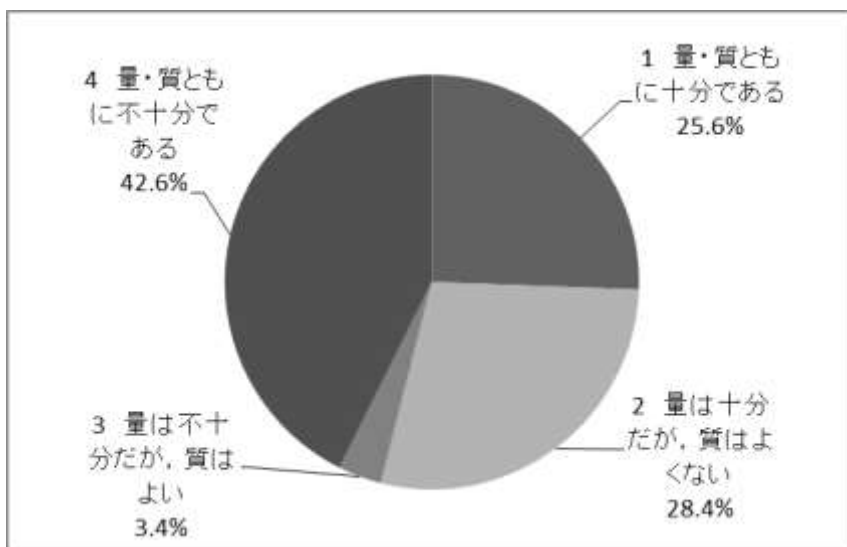
(N=175, N_A=453)

※全回答者(N=175)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



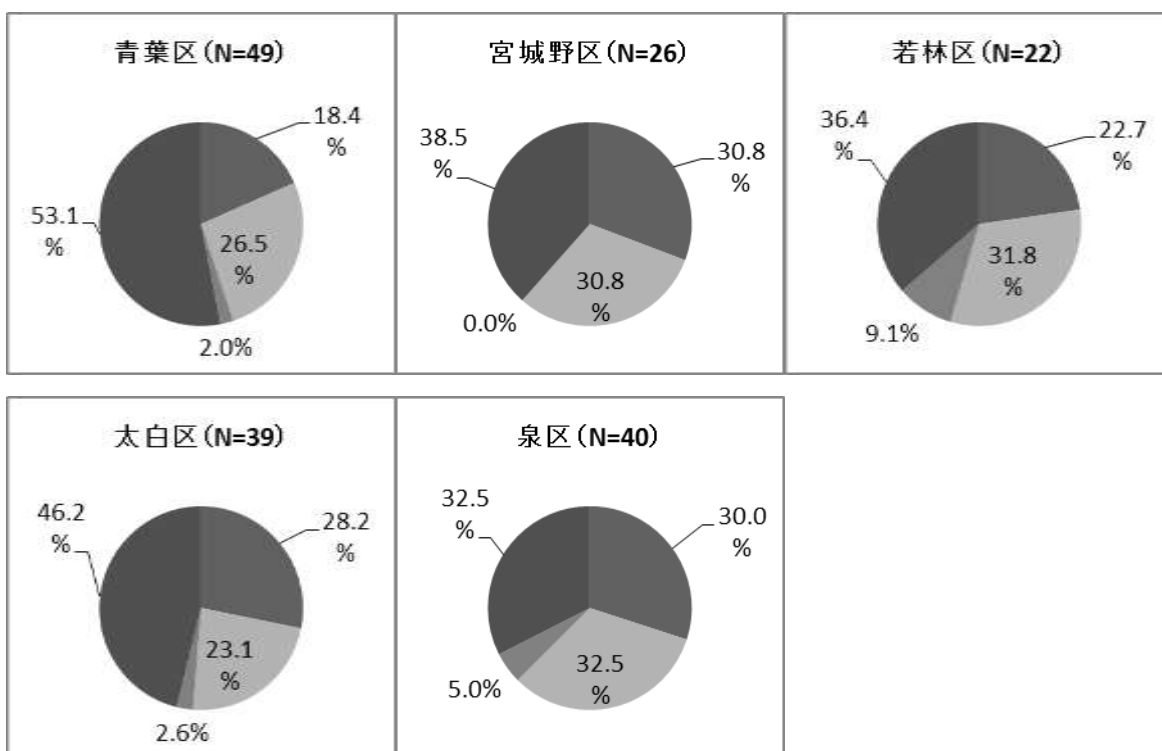
- 「6 子どもを遊ばせるための場所」を選んだ人が多く、全体の 65.7%となっています。
- 「5 健康促進のための散歩や運動をする場所」「10 憩いの場を与え、心をなごませる場所」を選んだ人も30%以上います。
- 「9 災害時の避難場所」も28.6%の人が選びました。

⑪ 現在のあなたのお住まいの近くにある公園の量や質について、どのような印象を持っていますか。
(N=176)



- 量が十分であるという人(回答 1+2)は、54.0%と過半数を超えています。
- しかし、42.6%の人が、量・質ともに不十分だと感じており、特に質に満足していない人(回答 2+4)は、71.0%を占めています。

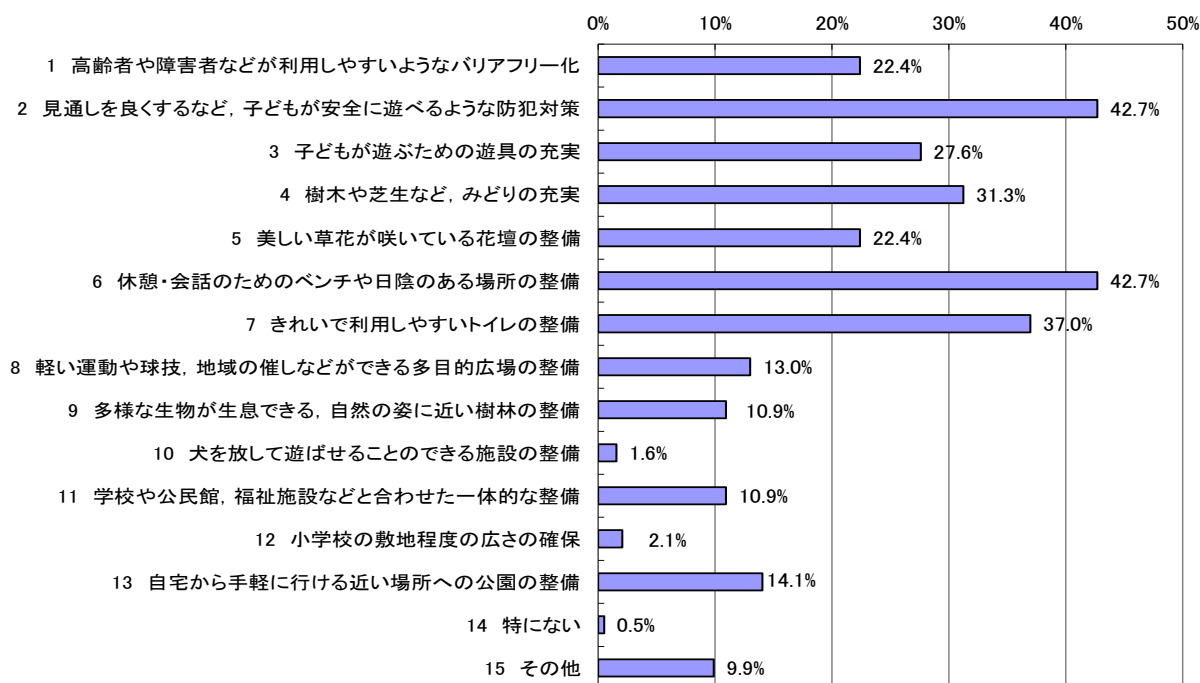
◆ 区別 ◆



- 住んでいる区によって身近な公園に対する満足度は大きく異なっています。
- 宮城野区・泉区では、量は満足している人(回答 1+2)の割合が他区よりも高く、60%を超えています。
- 青葉区・太白区では、身近な公園に対する満足度が他区よりも低く、量・質ともに不十分だと感じている人がおおよそ半数を占めています。

⑫ あなたのお住まいの近くの公園を整備・再整備する場合に、特に必要なことは何だと思えますか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=192, N_A=555)

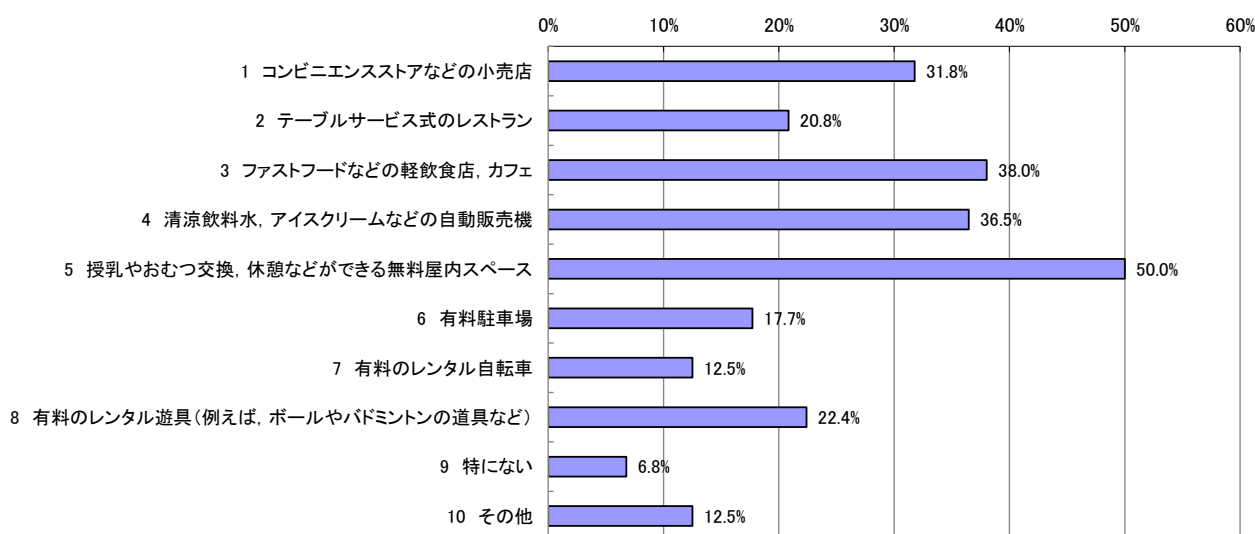
※ 全回答者(N=192)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 「2 見通しを良くするなど、子どもが安全に遊べるような防犯対策」、「6 休憩・会話のためのベンチや日陰のある場所の整備」を選んだ人が最も多く、ともに全回答者の42.7%が選んでいます。
- 次に、「7 きれいで利用しやすいトイレの整備」を選んだ人が多く、37.0%を占めています。
- 「10 犬を放して遊ばせることのできる施設の整備」を選んだ人は1.6%で、少ないです。

⑬ 大規模な公園に「あったら良い」「便利だ」と思うサービス施設は何だと思えますか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=192, N_A=478)

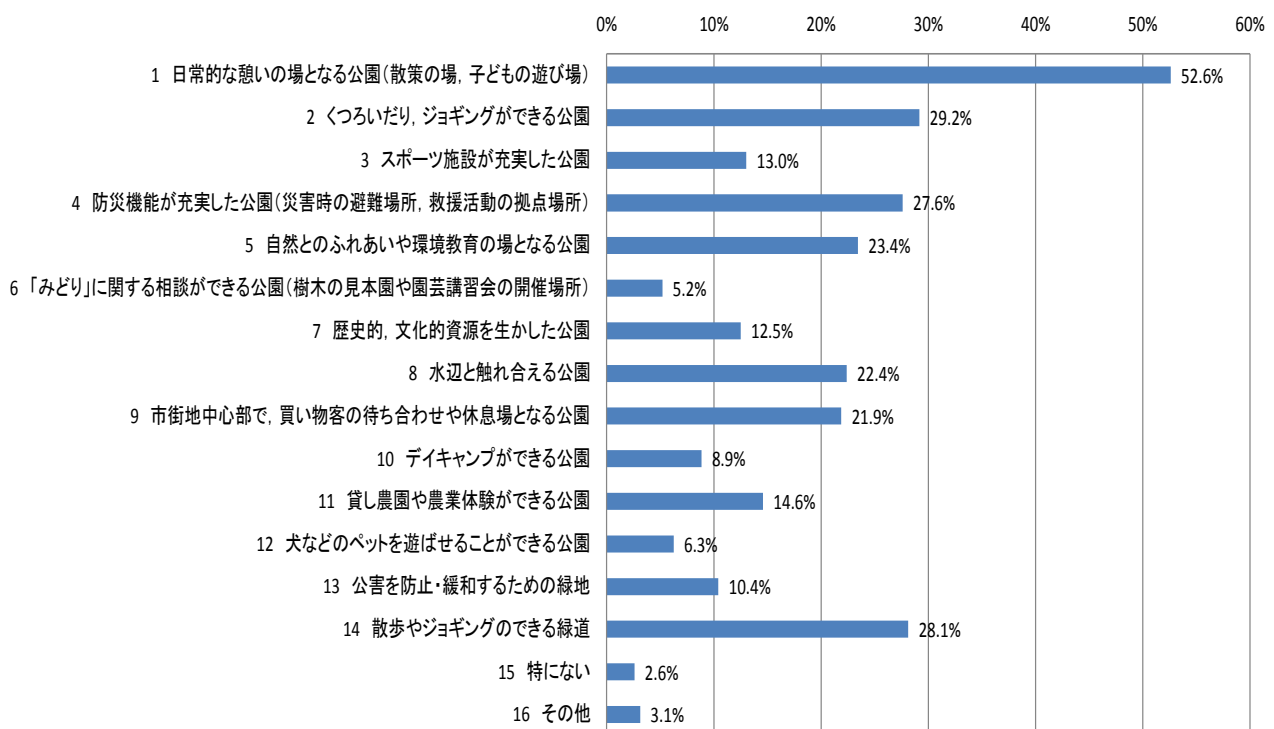
※ 全回答者(N=192)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 「5 授乳やおむつ交換, 休憩などができる無料屋内スペース」を選んだ人が最も多く, 回答者の半数が選んでいます。
- 次いで, 「3 ファストフードなどの軽飲食店, カフェ」, 「4 清涼飲料水, アイスクリームなどの自動販売機」, 「1 コンビニエンスストアなどの小売店」を選んだ人が多く, とともに全体の 30%を超えています。
- 「10 その他」の欄には, 無料駐車場と記載した人が, 全体の 4.7%いました。

⑭ 仙台市全域で, 今後増やして欲しい公園はどのような公園ですか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=192, N_A=541)

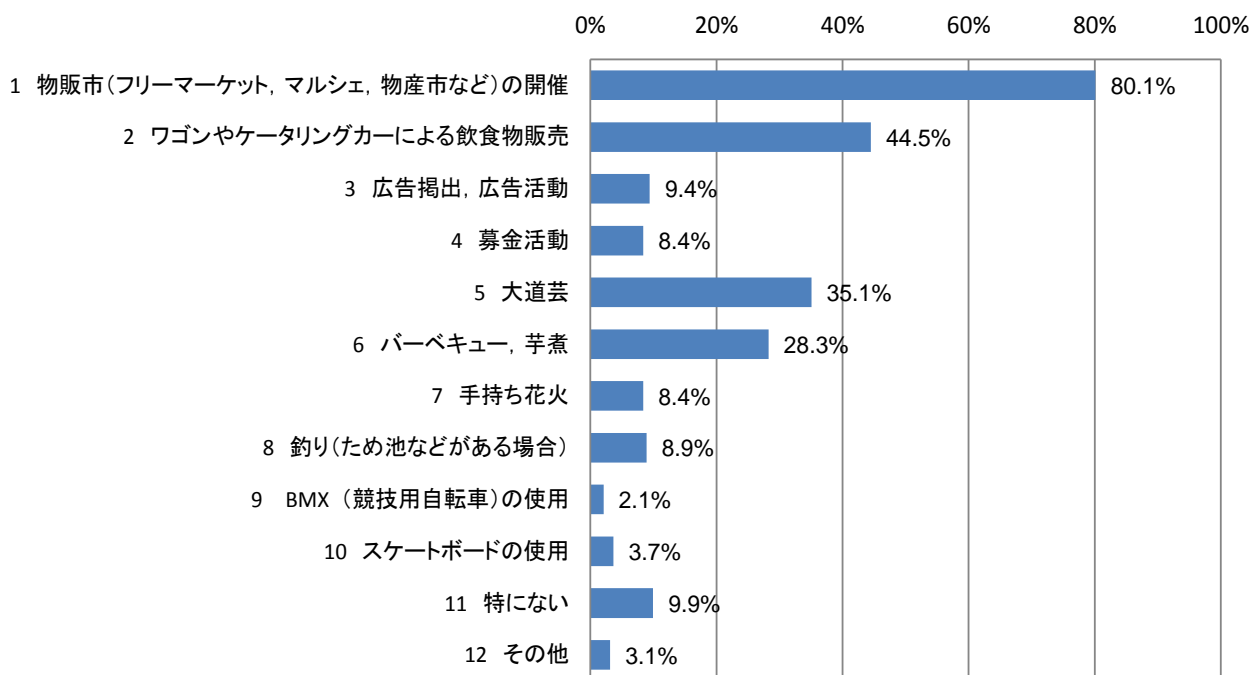
※ 全回答者(N=192)のうち, 該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 増やして欲しい公園として, 「1 日常的な憩いの場となる公園(散策・子どもの遊び場)」を選んだ人が最も多く, 回答した人の 52.6%が選んでいます。また「2 くつろいだり, ジョギングができる公園」, 「14 散歩やジョギングのできる緑道」を選んだ人も多いです。
- 「4 防災機能が充実した公園(災害時の避難場所, 救援活動の拠点場所)」も多くの人が選んでいます。
- 「6 「みどり」に関する相談ができる公園(樹木の見本園や園芸講習会の開催場所)」, 「12 犬などのペットを遊ばせることができる公園」, 「10 デイキャンプができる公園」を選んだ人は少ないです。

⑮ 次の行為の内、今後の公園利用を促進するため、一定の条件を定めて認めても良いと思う行為は何か。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=191, N_A=461)

※ 全回答者(N=191)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 公園内で認めても良い行為として、「1 物販市(フリーマーケット, マルシェ, 物産市など)の開催」を選んだ人が圧倒的に多く、回答した人の 80.1%が選んでいます。
- 次いで「2 ワゴンやケータリングカーによる飲食物販売」、「5 大道芸」、「6 バーベキュー, 芋煮」を選んだ人も多いです。

公園についてのまとめ

ほぼ半数の人が居住地の近くの公園を利用しています。男性の方が利用している人の割合が高く、また年齢別では 60 歳代 70 歳代で利用するという人の割合が高いです。

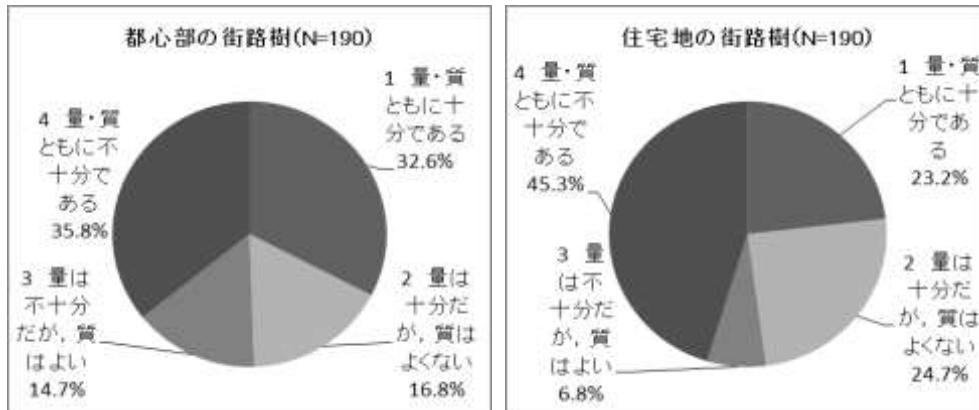
身近な公園の満足度について見てみると、全体では、量・質ともに不十分だと感じている人が 4 割強で最も多く、特に質について満足していない人は約 7 割を占めています。また住んでいる区ごとに満足度をみると、宮城野区・泉区では量に関する満足度は高く、青葉区・太白区では量・質ともに満足度が低いです。

身近な公園の役割、身近な公園を整備する際に重視すること、そして今後増やして欲しい公園、いずれも日常的な利用や機能を求める回答が多いです。このことから、緑が多く、落ち着いた木陰やベンチがあり、憩いの場として機能するような公園の整備が求められている傾向があると考えられます。

公園の利用については、物販市(フリーマーケット, マルシェ, 物産市など)の開催やワゴンやケータリングカーによる飲食物販売、大道芸など、人が集う賑わいの場としての活用を求められています。

◆「都心部」と「住宅地」の街路樹について

⑩ 現在の仙台市の都心部、住宅地の街路樹の量や質について、それぞれどのような印象を持っていますか。(N=190)

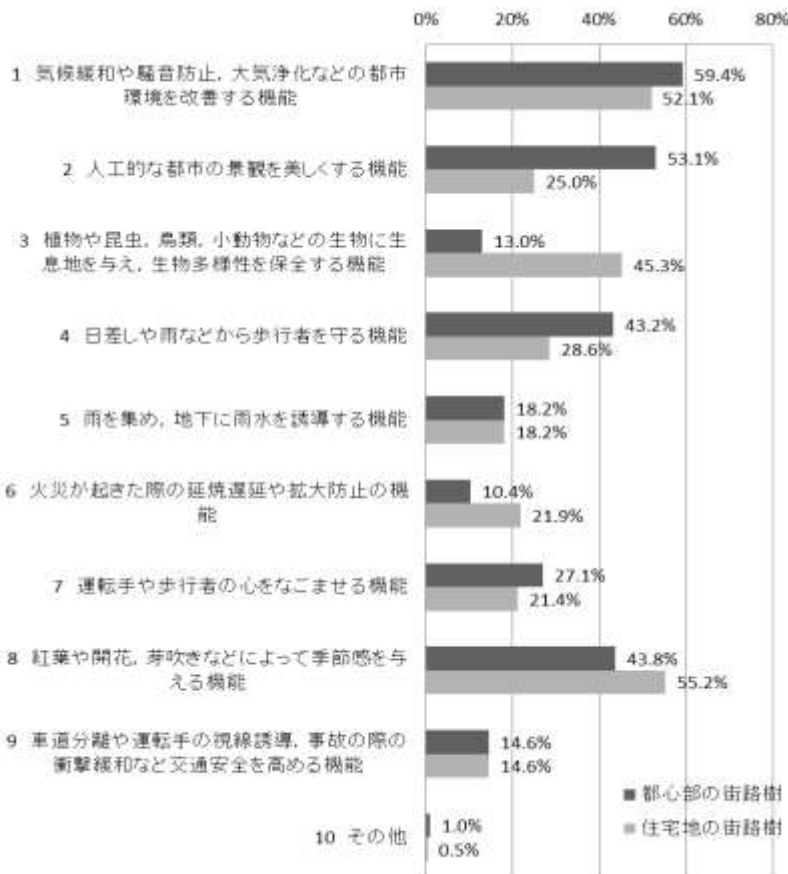


○ 住宅地の街路樹については 45.3%の人が量・質ともに不十分と答えています。また量・質ともに十分だと答えた人の割合は都心部の街路樹に比べると低く、都心部の街路樹よりも住宅地の街路樹の方が、満足度は低いです。

⑪ 街路樹には、市民の皆さまの生活の質を高めるための様々な機能があります。あなたが都心部、住宅地で街路樹に期待する機能として、特に重要なものは何ですか。「都心部」「住宅地」各項目それぞれについて、該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。

(都心部:N=192, N_A=545, 住宅地:N=192, N_A=543)

※ 全回答者(N=192)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



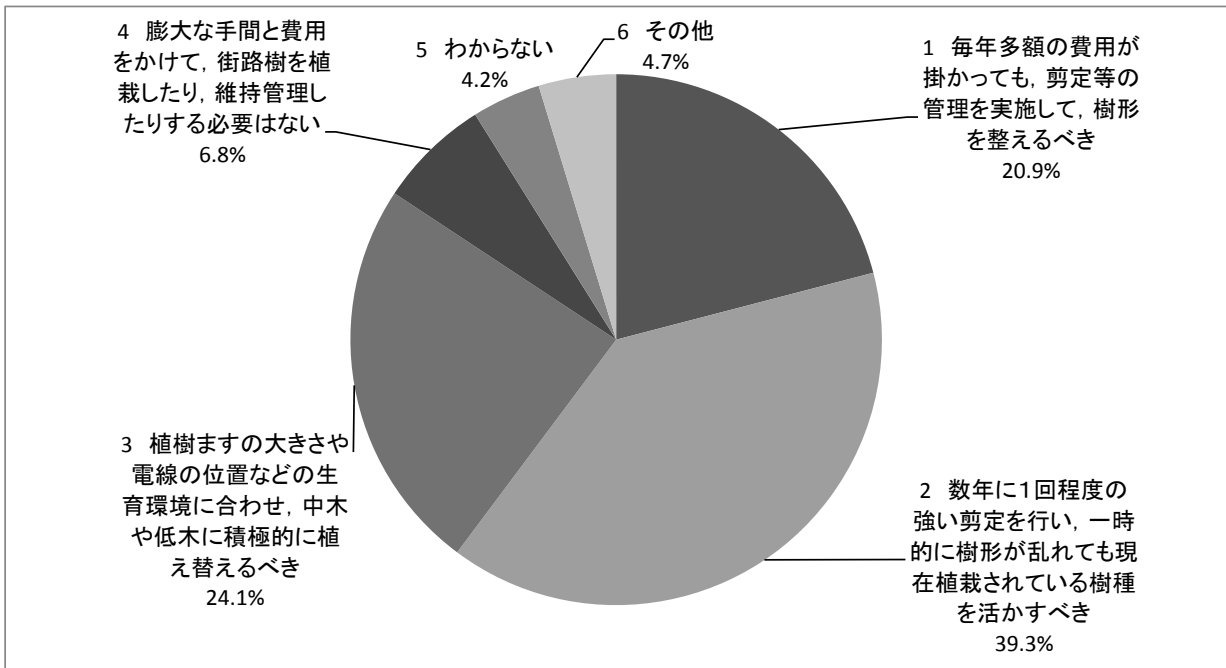
○ 「都心部」「住宅地」ともに「1 気候緩和・騒音防止・大気浄化などの都市環境を改善する機能」を選んだ人が多いです。

○ 都心部の街路樹については、「2 人工的な都市の景観を美しくする機能」を選んだ人が多いです。

○ 住宅地の街路樹については、「8 紅葉や開花、芽吹きなどによって季節感を与える機能」や、「3 植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する機能」を選んだ人が多いです。

⑩ 街路樹の管理について、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。

(N=191)



- 数年に一度程度の強い剪定により、現在植栽されている樹種を生かすべきだという考えを選んだ人が最も多く、次に「3 植樹ますの大きさや電線の位置などの生育環境に合わせ、中木や低木に積極的に植え替えるべき」、「1 毎年多額の費用が掛かっても、剪定等の管理を実施して、樹形を整えるべき」が続いています。
- 「4 膨大な手間と費用をかけて、街路樹を植栽したり、維持管理したりする必要はない」を選んだ人は、6.8%と少ないです。

街路樹についてのまとめ

全体としては都心部と比べ、住宅地の街路樹では量・質とも不十分であると感じている人が多く、満足度が低いです。

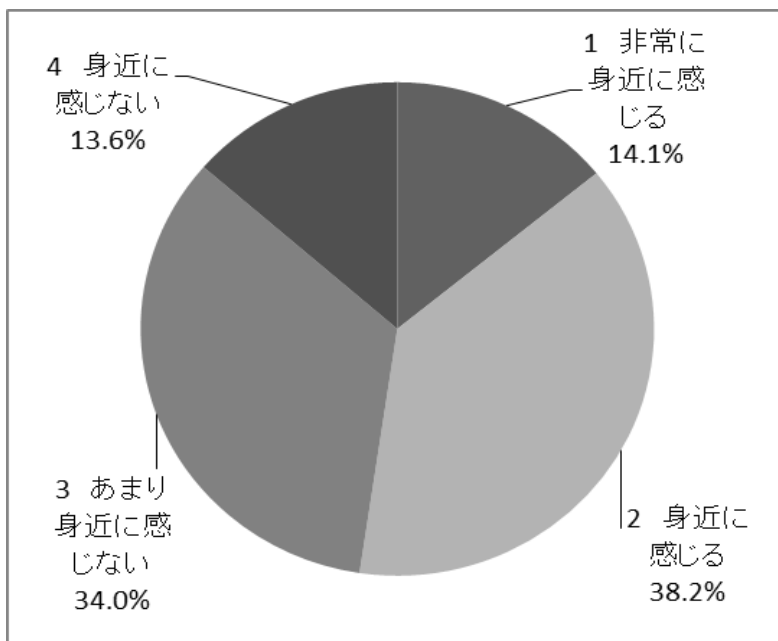
街路樹の機能として、都市部、住宅地ともに気候緩和・騒音防止・大気浄化などの都市環境を改善する機能を選んだ人が多いです。

しかしながら、その他の項目では都心部の街路樹と住宅地の街路樹で期待されている機能は異なり、都心部では、人工的な都市の景観を美しくする機能や日差しや雨などから歩行者を守る機能を選んだ人が多く、主に生活環境を改善する機能を重視している傾向があります。住宅地の街路樹については、紅葉や開花、芽吹きなどによって季節感を与える機能や、植物や昆虫、鳥類、小動物などの生物に生息地を与え、生物多様性を保全する機能を選んだ人が多く、主に自然的な環境を提供する機能を重視している傾向があります。

管理方法としては、現存の樹木を保全するという回答(回答 1+2)が6割を超え、特に、数年に一度強く剪定し、樹形が乱れてもなるべく現在植栽されている樹種を生かすべきという考えが最も多いです。

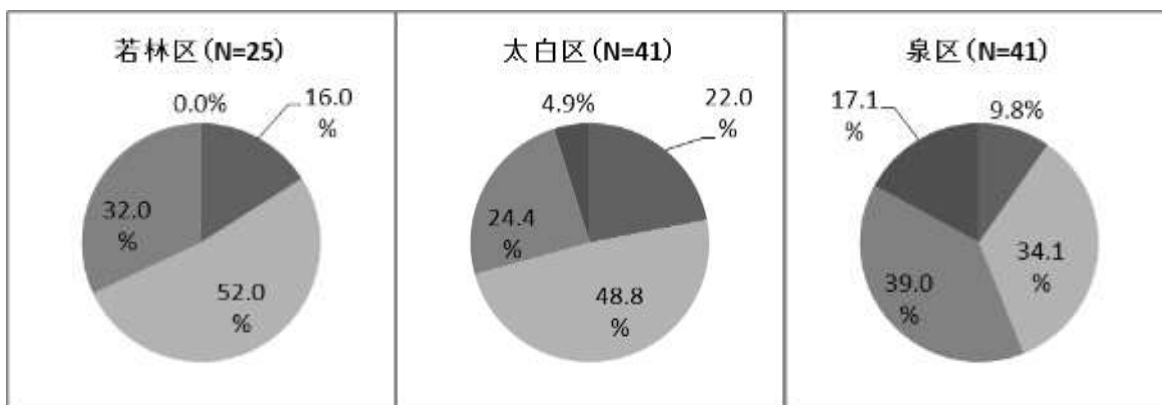
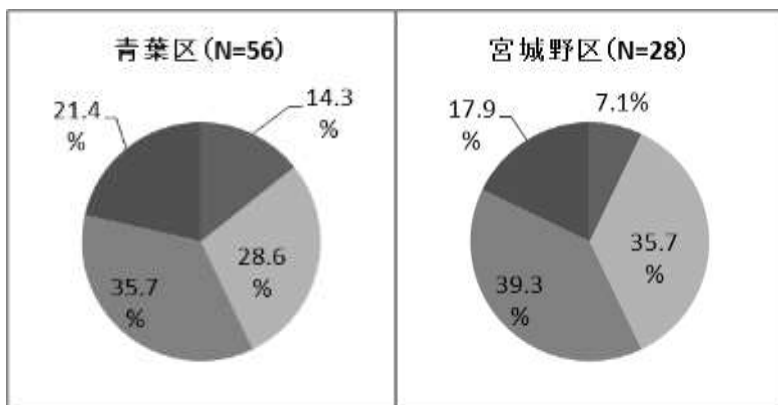
◆河川について

⑱ 現在の仙台市全域の河川について、身近に感じますか。(N=191)



○ 河川を身近に感じている人(回答1+2)は52.3%, 身近に感じていない人(回答3+4)は47.6%となっており、やや身近に感じる人の方が多いです。

◆区別◆

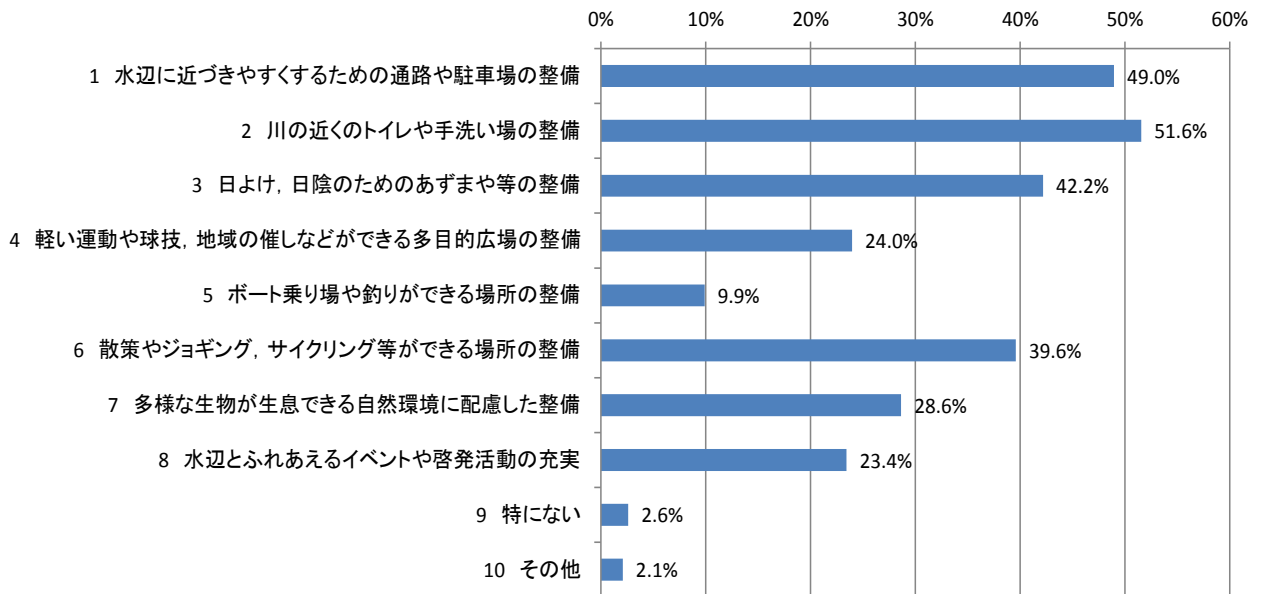


○ 若林区・太白区では、他区よりも河川を身近に感じている人の割合が多いです。

⑳ 市民の皆さまが、水辺の空間を利用するために、今後の河川区域の整備に、特に必要なものは何だと思いますか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。

(N=192, N_A=524)

※ 全回答者(N=192)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 「2 川の近くのトイレや手洗い場の整備」、「1 水辺に近づきやすくするための通路や駐輪場の整備」、「3 日よけ、日陰のためのあずまや等の整備」、「6 散策やジョギング、サイクリング等ができる場所の整備」という回答が多いです。
- 「5 ボート乗り場や釣りができる場所の整備」などの、特定のレクリエーション施設の整備を求める人は少ないです。

河川についてのまとめ

仙台の河川について、身近に感じるかどうかという質問では、全体では、身近に感じるという人が若干多いものの、感じないという人とほぼ半数ずつでした。しかし、区によって大きく異なり、河川が市街地に近接している若林区・太白区では身近に感じるという人が多く、市街地に近接している河川の流域があまりない他の区では身近に感じるという人が少ないです。

河川周辺の土地を整備する際に重要視する事項については、駐車場やトイレ、あずまやなどの便益施設のほか、散策やジョギング、サイクリング等のできる環境整備が求められている一方、多様な生物が生息できる自然環境に配慮した整備も求められています。

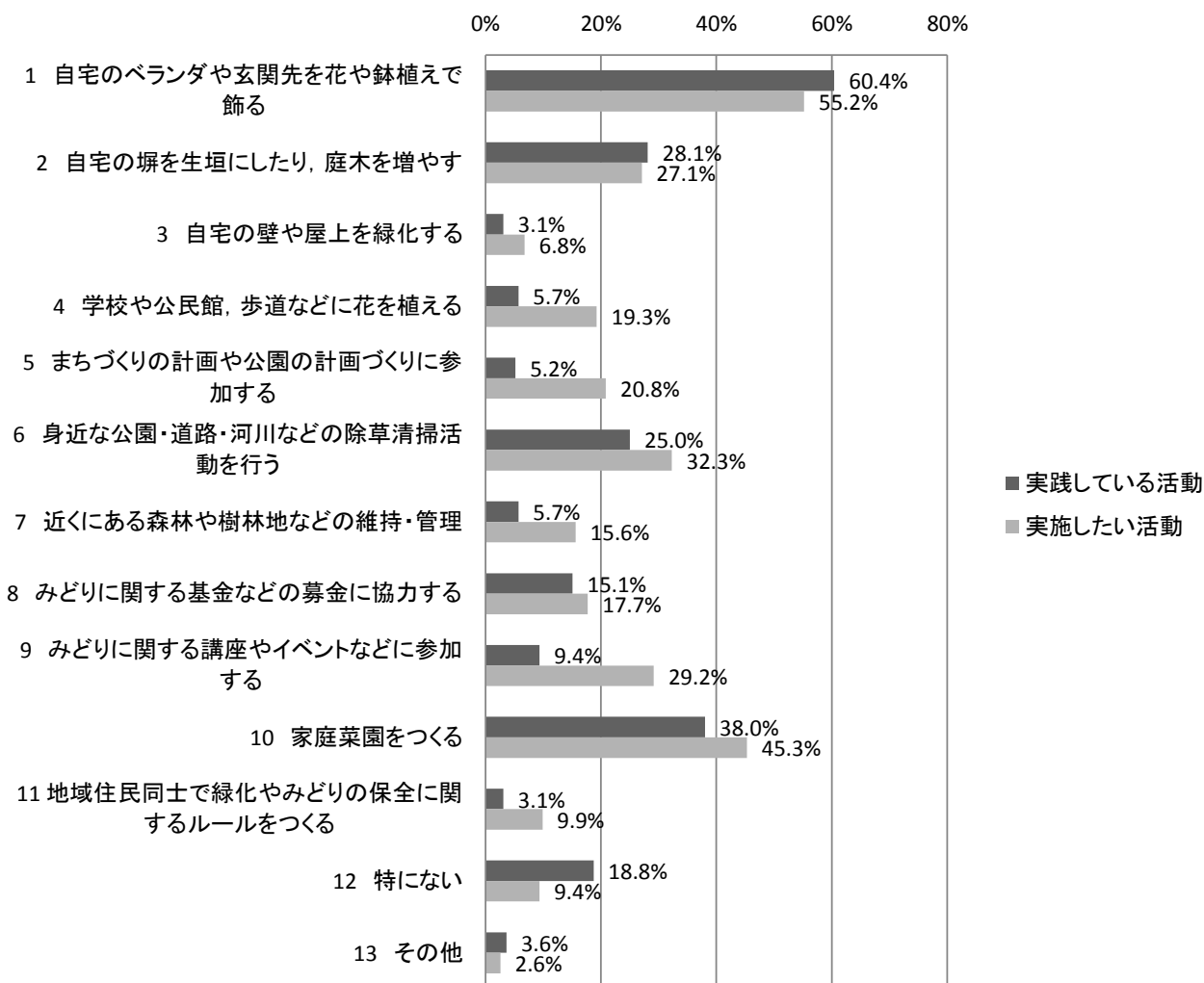
(4) みどり豊かなまちづくりへの参加について

これからのみどりのまちづくりは、市民・市民活動団体・事業者・行政が、それぞれ役割分担をしながら一体となって進めていく必要があります。ここでは、市民の皆さまがみどりのまちづくりのために実践している活動や、活動に参加するための条件等について質問しました。

① あなたがみどり豊かなまちづくりのために、実践している活動と実践したい活動は何ですか。該当するものを全て選んでください。

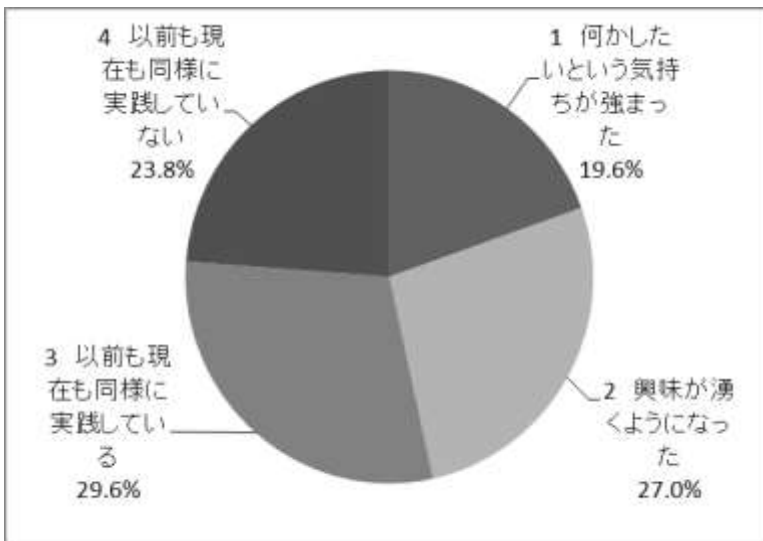
(実践している活動：N=192, N_A=425, 実践したい活動：N=192, N_A=559)

※ 全回答者(N=192)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



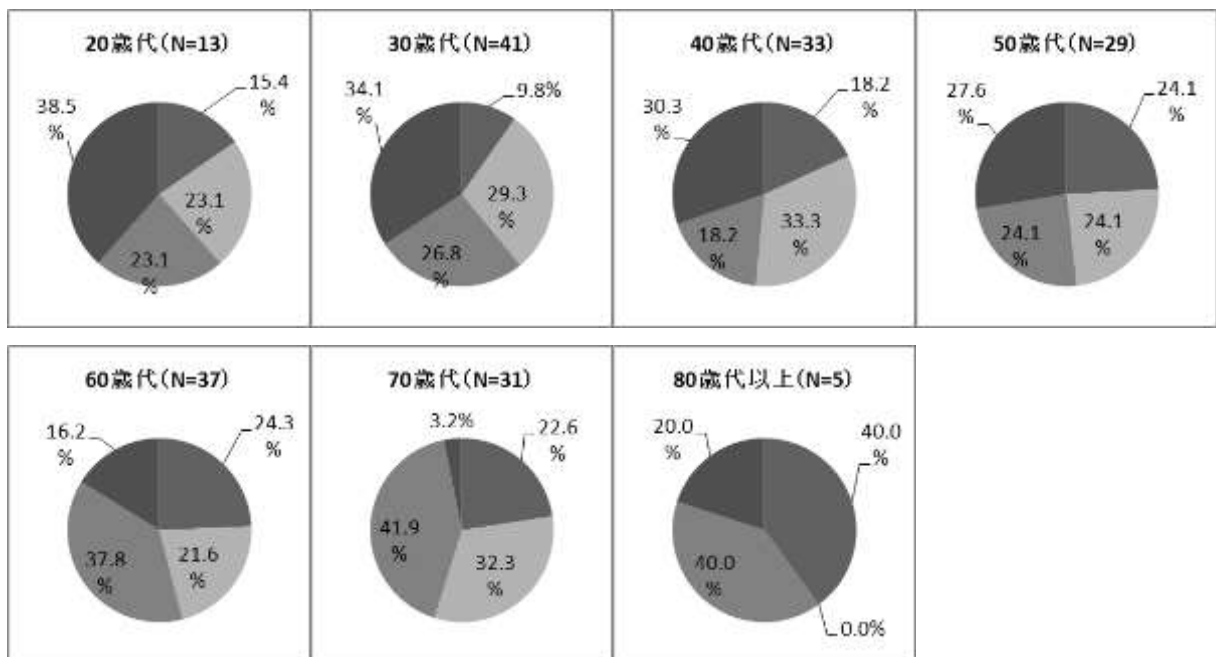
- 実践している活動、実践したい活動ともに、「1 自宅のベランダや玄関先を花や鉢植えて飾る」、「10 家庭菜園をつくる」など、個人でできる活動を選んだ人が多いです。
- 「4 学校や公民館、歩道などに花を植える」、「5 まちづくりの公園の計画づくりに参加する」などの地域緑化に関わる活動は実践している人は少ないですが、実践したいと思っている人は多いです。
- 「9 みどりに関する講座やイベントなどに参加する」は、参加したいと思っている人が多いです。

② 東日本大震災後(震災後1年程度まで)と現在で、みどり豊かなまちづくりについて気持ちの変化はありますか。(N=189)



- 何かしたい、興味が湧くようになったという気持ちの変化があった人(回答 1+2)は全体の46.6%を占めています。
- また29.6%の人が、震災以前と同様に、何らかのみどり豊かなまちづくり活動を実践しています。

◆年齢別◆

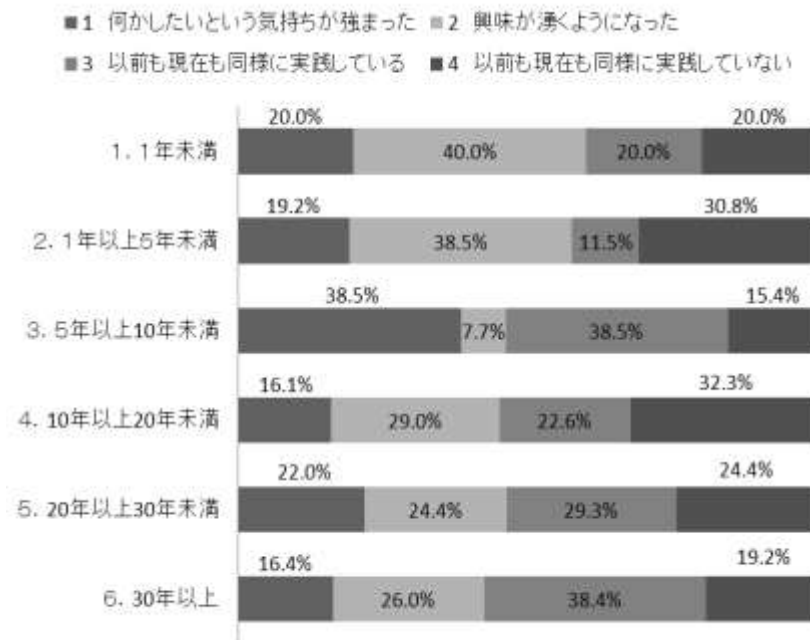


- 何かしたい、興味が湧くようになったという気持ちの変化があった人(回答 1+2)の割合が一番高いのは、70歳代(54.9%)が一番多く、次いで40歳代(51.5%)です。
- 20歳代は、「4 以前も現在も同様に実践していない」を選んだ人が38.5%と一番高いです。
- 60歳代・70歳代・80歳代以上では、震災以前と同様に、何らかのみどり豊かなまちづくり活動を実践している人の割合が、全体の約4割と他の年齢より多いです。

◆居住年数別◆

居住年数ごとの全回答を100とした場合の、各回答の割合

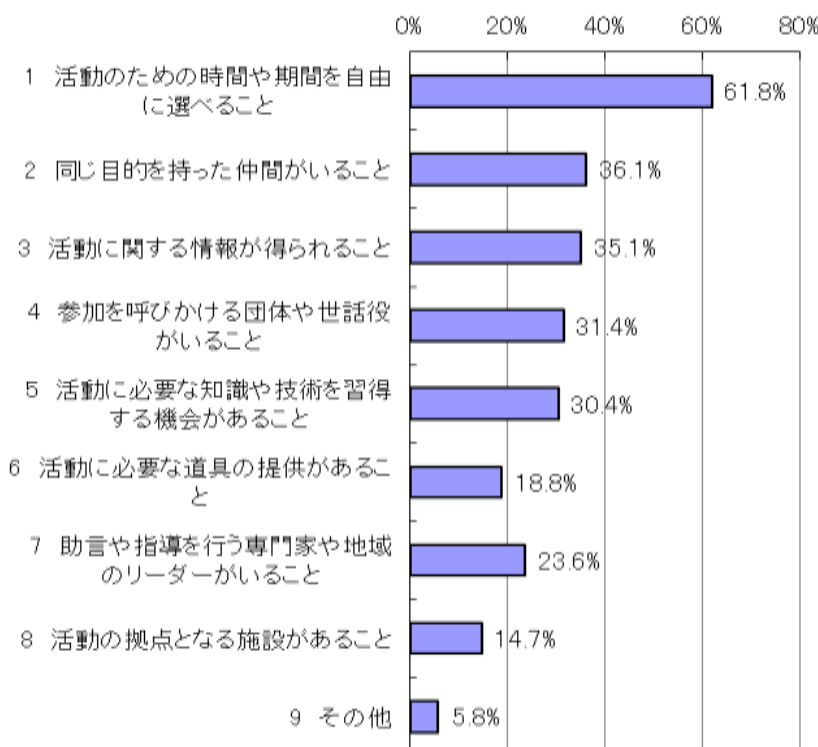
(1年未満:N=5, 1年以上5年未満:N=26, 5年以上10年未満:N=13, 10年以上20年未満:N=31, 20年以上30年未満:N=41, 30年以上:N=73)



- 居住年数が5年未満の人では、何かしたい、興味が湧くようになったという気持ちの変化があった人(回答 1+2)の割合が約6割となっています。
- 居住年数が5年以上10年未満の人では、「1何かしたいという気持ちが強まった」、「3 以前も現在も同様に実践している」を選んだ人が他の居住年数の人より多いです。

③ あなたが、みどり豊かなまちづくりの活動に参加するための条件は何ですか。該当する番号を3つまで選びチェックをしてください。(N=191, N_A=492)

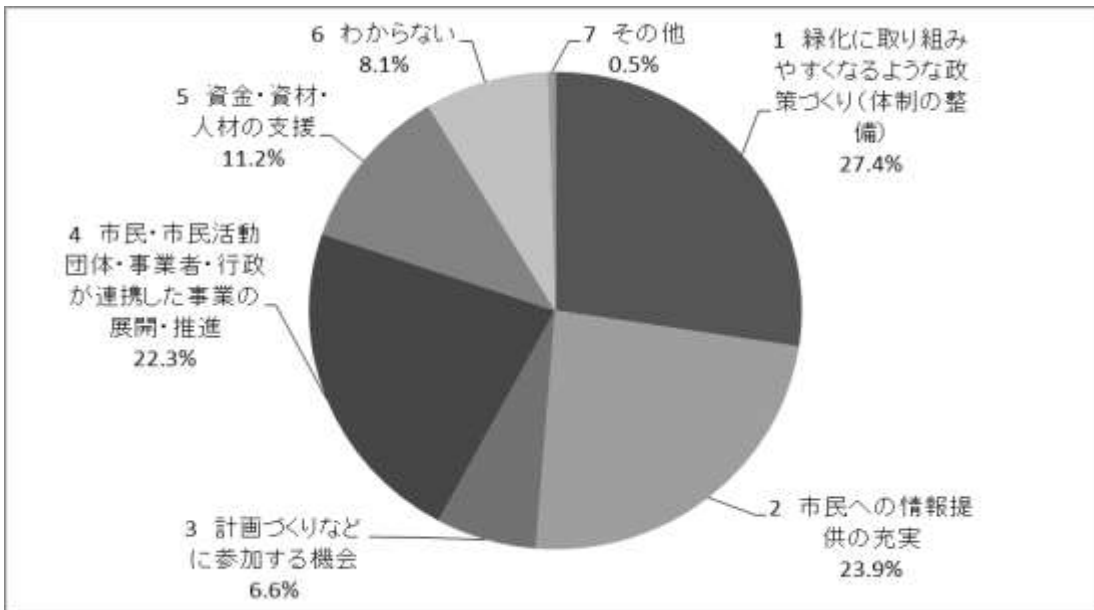
※ 全回答者(N=191)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



- 「1 活動のための時間や期間を自由に選べること」を選んだ人の割合が61.8%で最も高く、次いで、「2 同じ目的を持った仲間がいること」を選んだ人の割合が36.1%で高いです。
- 「6 活動に必要な道具の提供があること」や「8 活動の拠点となる施設があること」を選んだ人は少ないです。

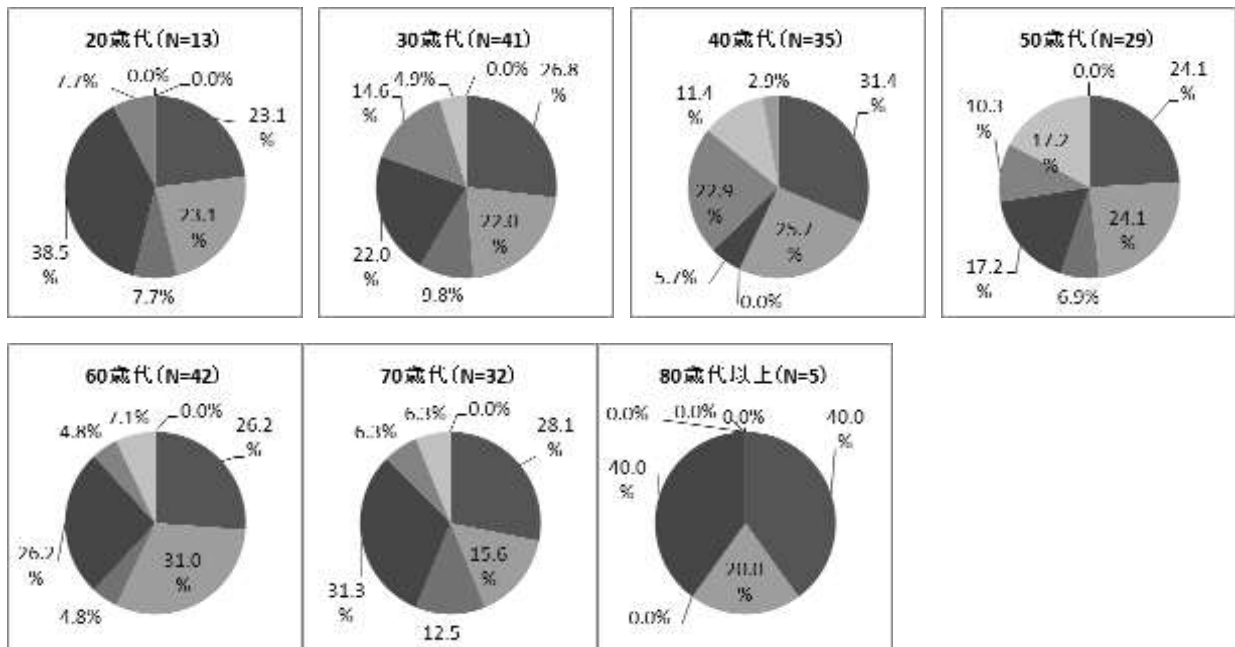
④ みどり豊かなまちづくりのためには、市民・市民活動団体・事業者・行政がそれぞれの立場で、お互いに協力していくことが重要です。そのために最も重要なことは何だと思いますか。

(N=191, N_A=197) ※全回答(N_A=197 複数回答 6)に対する割合を示しています。



○ 「1 緑化に取り組みやすくなるような政策づくり(体制の整備)」、「2 市民への情報提供の充実」、「4 市民・市民活動団体・事業者・行政が連携した事業の展開・推進」を選んだ人の割合が高いです。

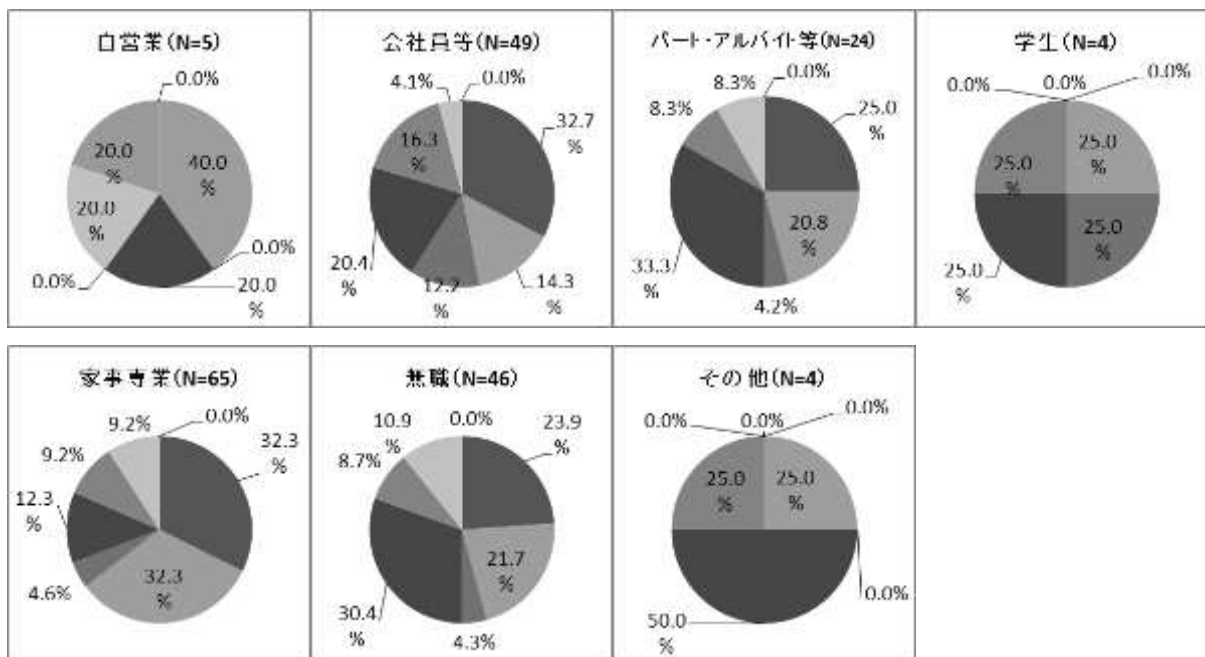
◆年齢別◆



○ 40歳代では、「1 緑化に取り組みやすくなるような政策づくり(体制の整備)」を31.4%の人が選んでいます。が、「3 計画づくりなどに参加する機会」を選んだ人はいませんでした。

○ 20歳代、80歳代は対象者が少ないものの、「4 市民・市民活動団体・事業者・行政が連携した事業の展開・推進」を選んだ人の割合が他の年代よりも多いです。

◆職業別◆



- 会社員等や家事専業の人では、「1 緑化に取り組みやすくなるような政策づくり(体制の整備)」を選んでいる人の割合が約 32%となっています。
- 家事専業の人は、「2 市民への情報提供の充実」を選んでいる人の割合も約 32.3%と「1 緑化に取り組みやすくなるような政策づくり(体制の整備)」に並んで多いです。

みどり豊かなまちづくりへの参加についてのまとめ

みどり豊かなまちづくりのための活動として、現在実践しているものとしては、自宅の緑化や家庭菜園づくりなど、個人でできる取り組みが多いです。一方、学校などの公共施設の緑化や公園の計画づくりの参加などの、個人ではできない地域緑化に関する活動については、実践したいと思っている人が多いにもかかわらず、実際はあまり行われていません。

また、東日本大震災後、みどり豊かなまちづくりについて、「何かしたい」「興味が湧くようになった」という気持ちの変化があったと回答した人が、半数近くを占めています。地域の緑化活動を促進するためには、活動のための時間などを自由に選べることや、同じ目的を持った仲間がいること、活動に関する情報が得られることなどが求められている傾向があります。

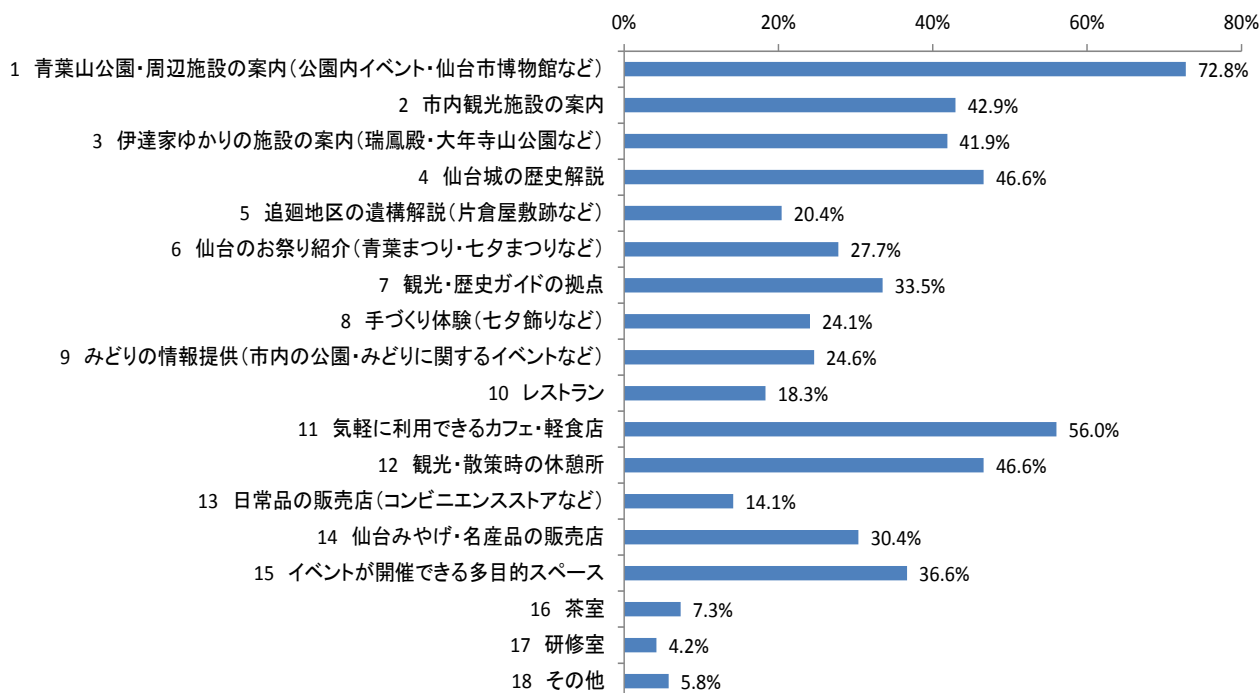
また、市民・事業者・行政がそれぞれの役割を果たし、一体となって緑のまちづくりを進めるために、これらの現状を踏まえたうえで、市民や事業者が緑化に取り組みやすくなるような体制の整備や、市民への情報提供の充実をはかっていくことが求められていると考えられます。

(5) 青葉山公園について

青葉山公園の追廻地区に整備予定の「(仮称)公園センター」の活用について質問しました。

① (仮称)公園センターの機能や役割について、重要と思われるものは何ですか。該当する番号にいくつでもチェックをしてください。(N=191, N_A=1,058)

※ 回答者(N=191)のうち、該当する選択肢を選んだ人の割合を示しています。



(仮称)公園センターの機能や役割についてのまとめ

「1 青葉山公園・周辺施設の案内(公園内イベント・仙台市博物館など)」を選んだ人の割合が 72.8%で最も高く、次いで、「11 気軽に利用できるカフェ・軽食店」を選んだ人の割合が 56.0%で高いです。

次いで「4 仙台城の歴史解説」、「12 観光・散策時の休憩所」、「2 市内観光施設の案内」や「3 伊達家ゆかりの施設の案内(瑞鳳殿・大年寺山公園など)」を選んだ人も多く、総じて歴史解説や観光の拠点としての役割を望む人が多いです。

また、歴史・観光等に関連する機能よりも若干下回っていますが、「15 イベントが開催できる多目的スペース」を望む声も多く、様々な役割を担う公園として期待されています。

その他「みどり」に関するご意見・ご要望を多数いただきましたので、今後の仙台市のみどりのまちづくりの参考にさせていただきます。